菱川
築山圖庭畫　全

寄別
カ
77

別圖

帝國圖書館藏

5-6
4-14

国立国会図書館　タイトル『余慶作り庭の図』　請求記号　寄別5-6-4-14

ガラス使用

菱川

築山圖（つきやまのづ）庭畫（にはつくり）　全

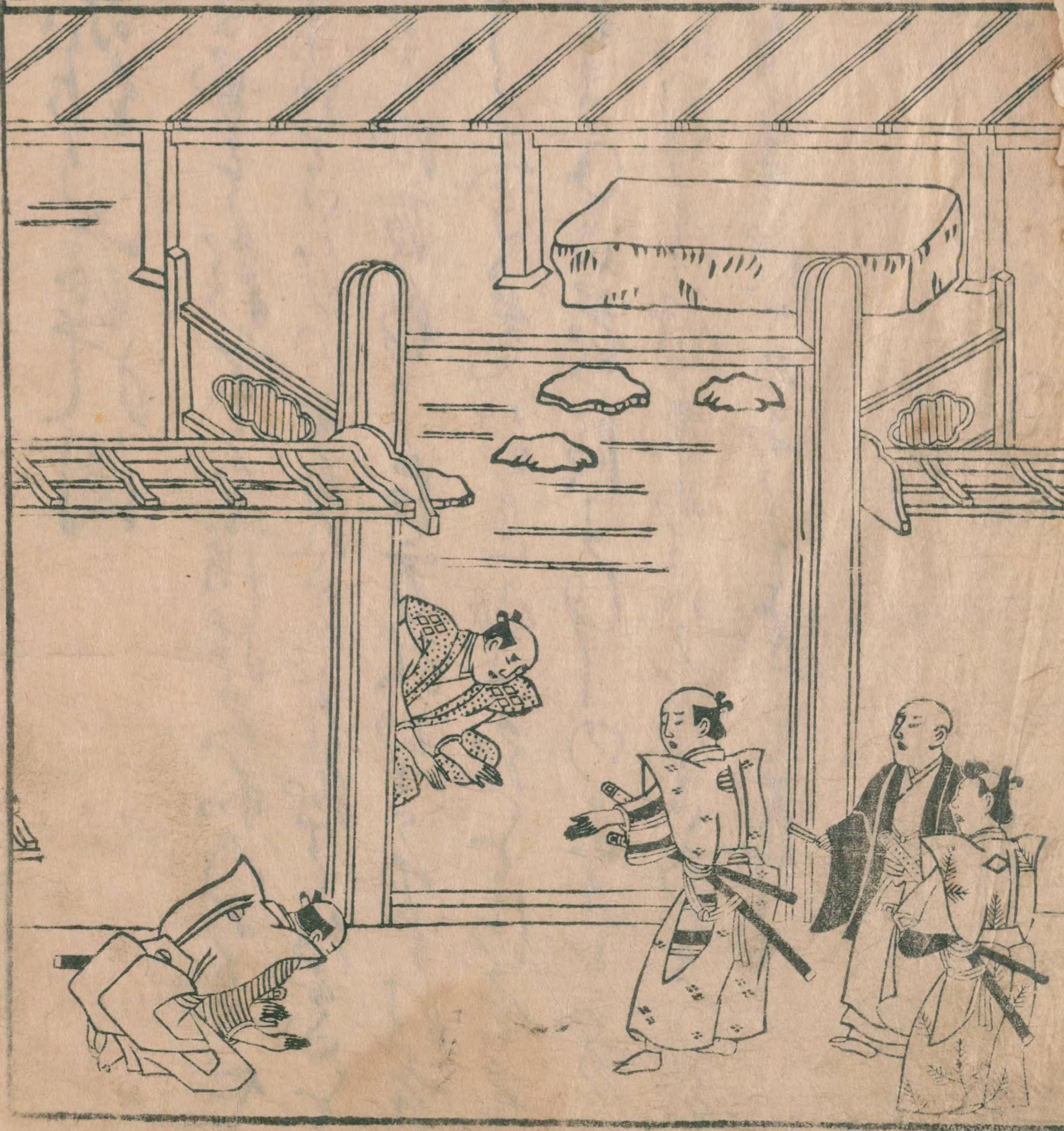
寄別
カ
77

餘慶作り庭の圖

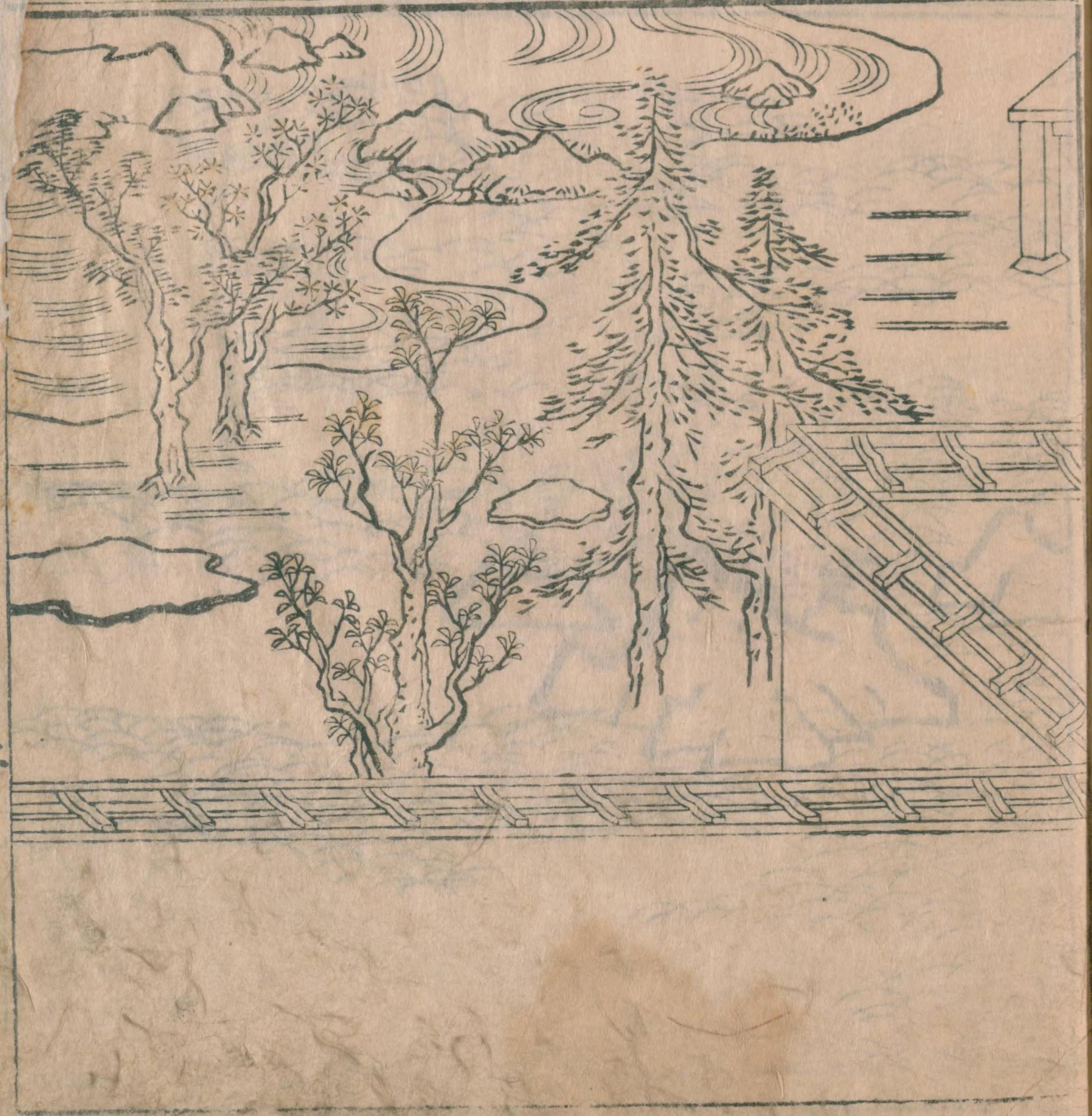
凡山庭は當に都にて廣く大和乃あれこれや
これおのり作らせいと見へさそれ自然に作さと
好き作りまさ庭形り白石抔おきそれらは名
利相違とてこの人らも見えいかまて山も花と添せに
うけまそるをよまでよき花限ましてののみをとおゝう
名作らさ此庭造り餘慶ありいら作さわるゝ弱
為へしといふすしと此ちあふし畫　年

帝國圖書館藏

らんちらひて
さりなから庭ハ
あれハ池とか
又その池の
こゝろたれ
ほまゝの木と
うへくわへ芝
とゝせらび石
扨すへられさ
御すさや涼と
而るぞくかうふ
たゝとつけり
ほまなとれな
かくとうやされ
するかれるゝに

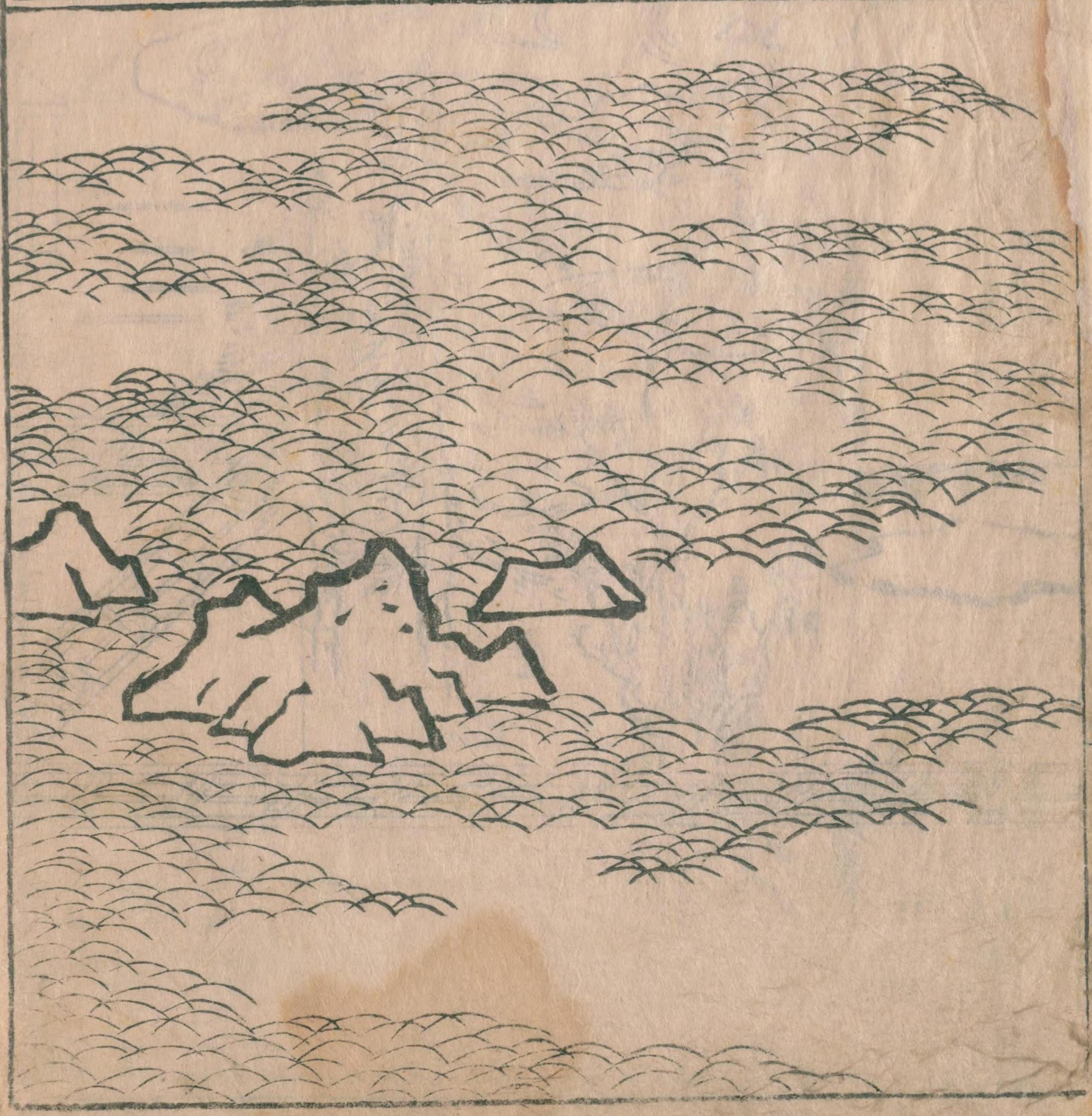


この作りと並
木の庭とゆふ
かしわく泉の
よそりとりけり
すは志とそて
かる桜とう植
木らし作りて
あぐのまひさる
ちとをけかて
すわさてしく
うしらへ花かま
物意をとしる
くしとりけり
切場し花まで
つゝ山も作く

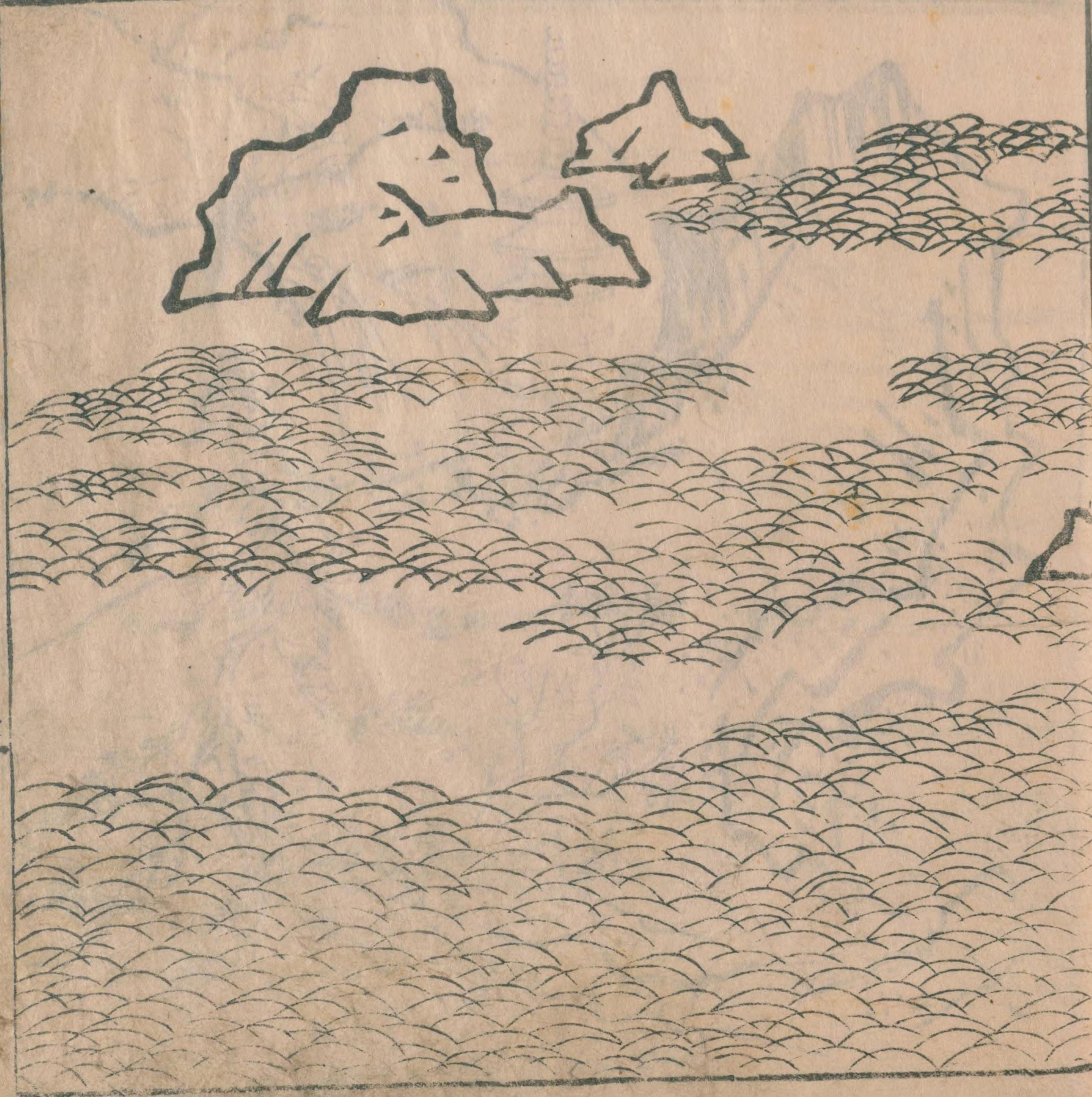


ガラス使用

いさく庭を
いかやせんやう
みだするどの
すゑおかるべく
くしうらひゝ
ささ海庭に
西にすそいるを
あらいそ岸も
なく荒浪あ
さもせはしく
わくれり名ぞく
よせてうんと
せし時ハよつは
あだくともれ
てあげだよく
日房うつれの

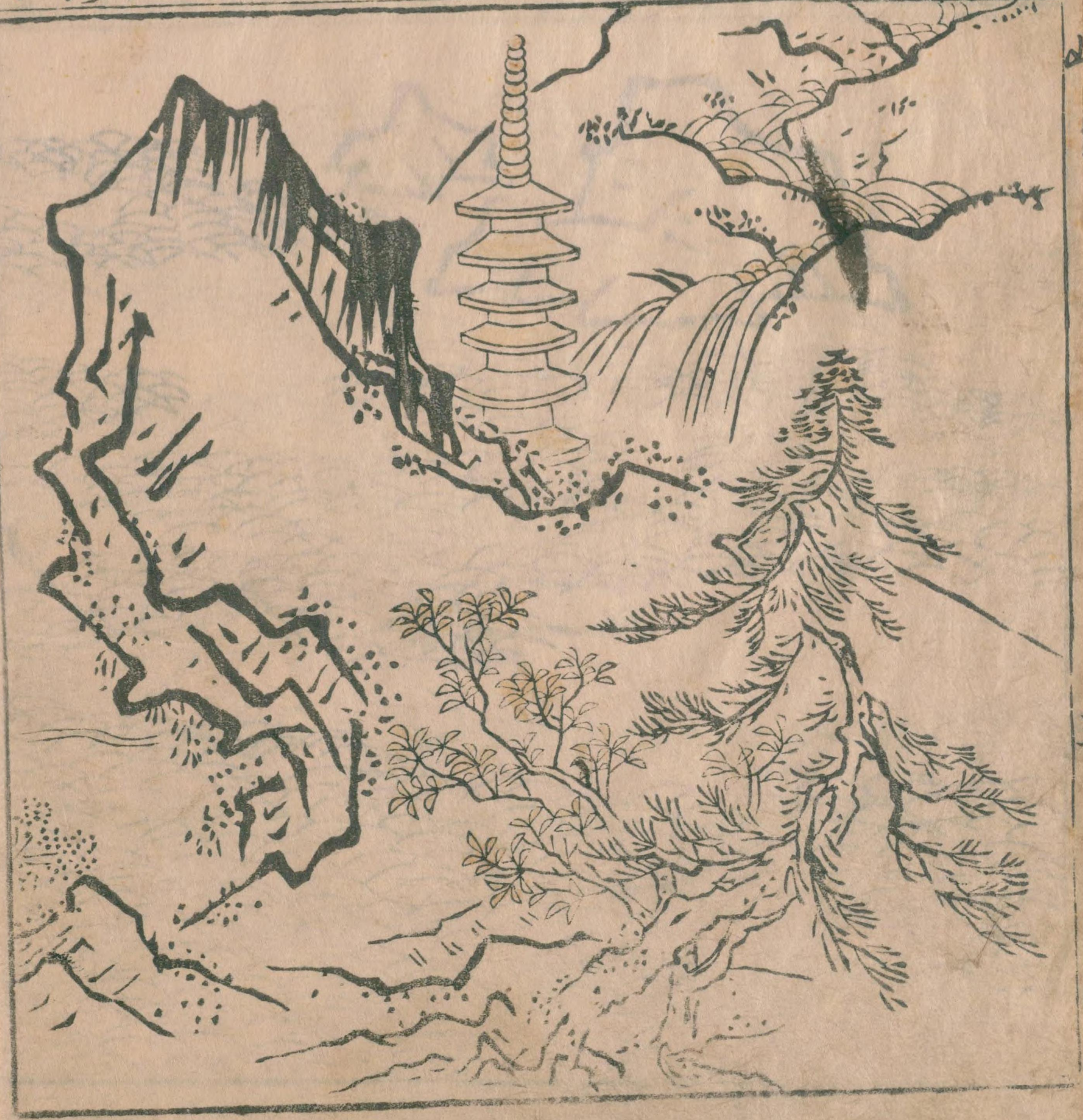


和のゐるふく
よろれり岩
んらそき此時
なゝ鷹ふきと
わきにう庭
なり西にしを
て岩をおく
けいに松鶴
みぞのけいと
りらみえ作る
庭なりこ三
有てあくさる
がら路此てい
なりすれ岩よ
日傍わつみを
なり

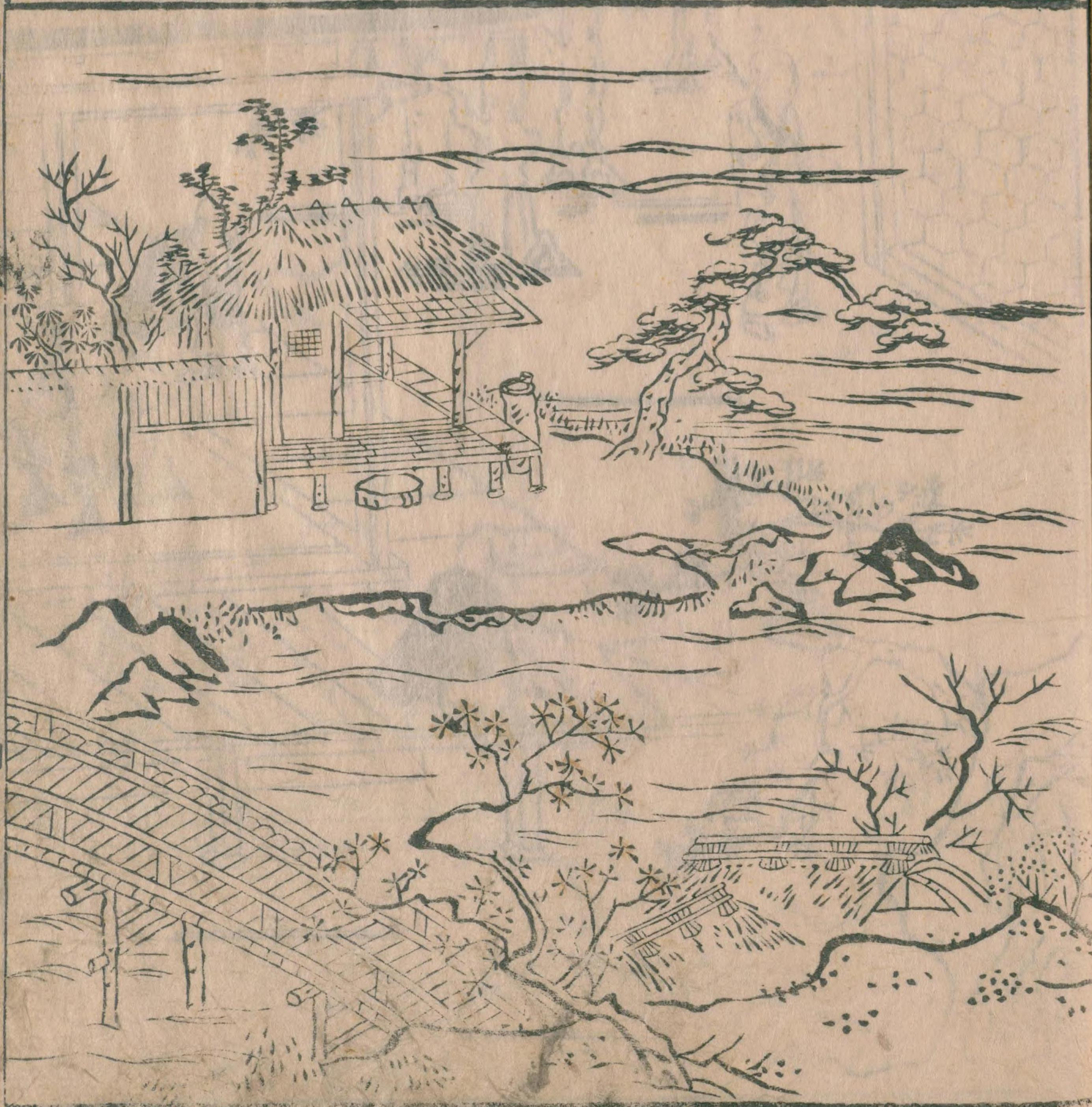


ガラス使用

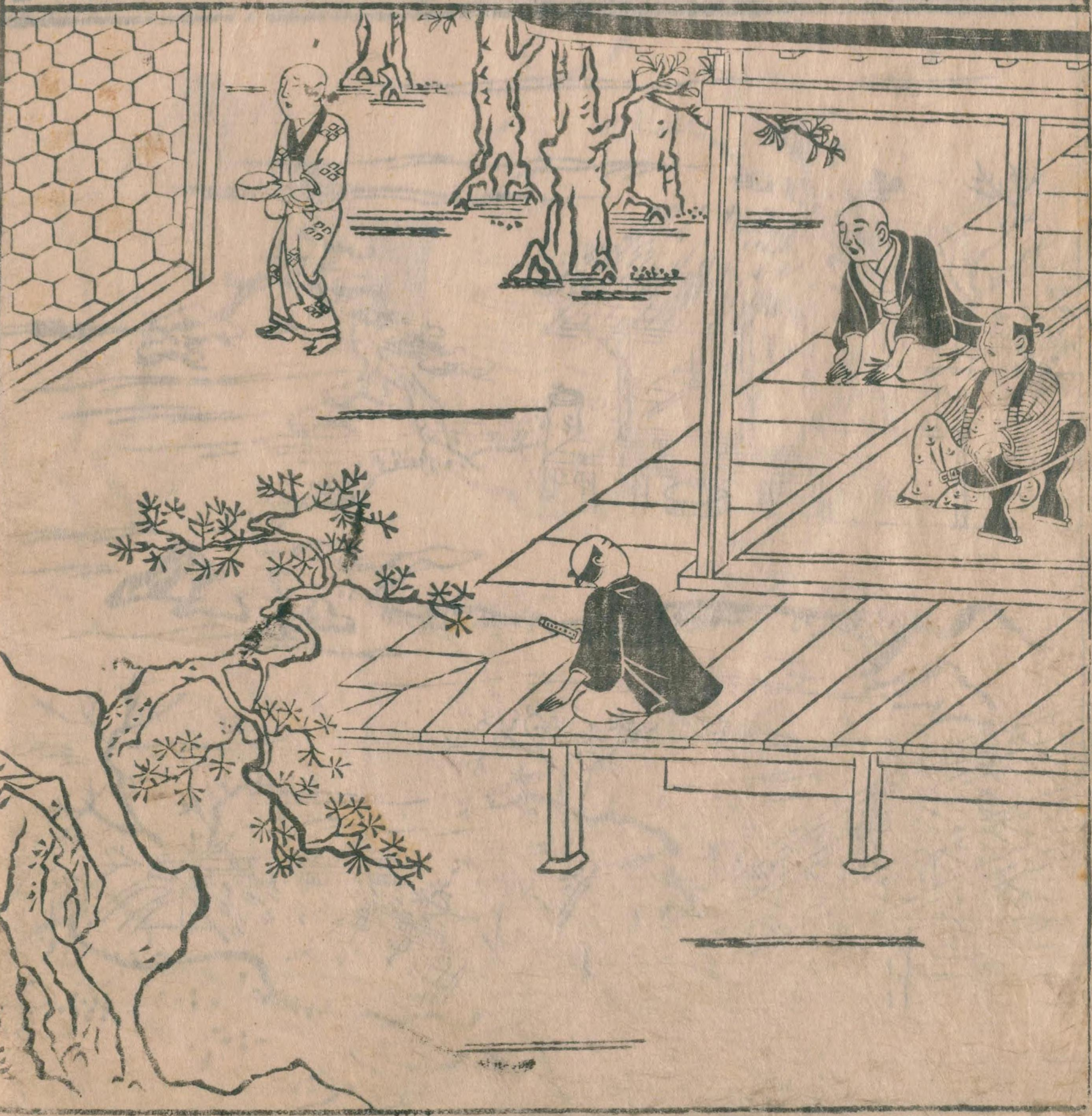
△此ゆとかく申也
ふとみかん山乃
庭にては洞庭
のかゝりをうつすよ
うつるなどげんそ
れうりさとそれ
そのゆへにかると
かり家のとな
ぐ寸庭と時に
作り時に左変
とゝそくすれ
よろしとうけく
そろつくよ山の
ていへのかた
とけけて山の
みえれうげよ



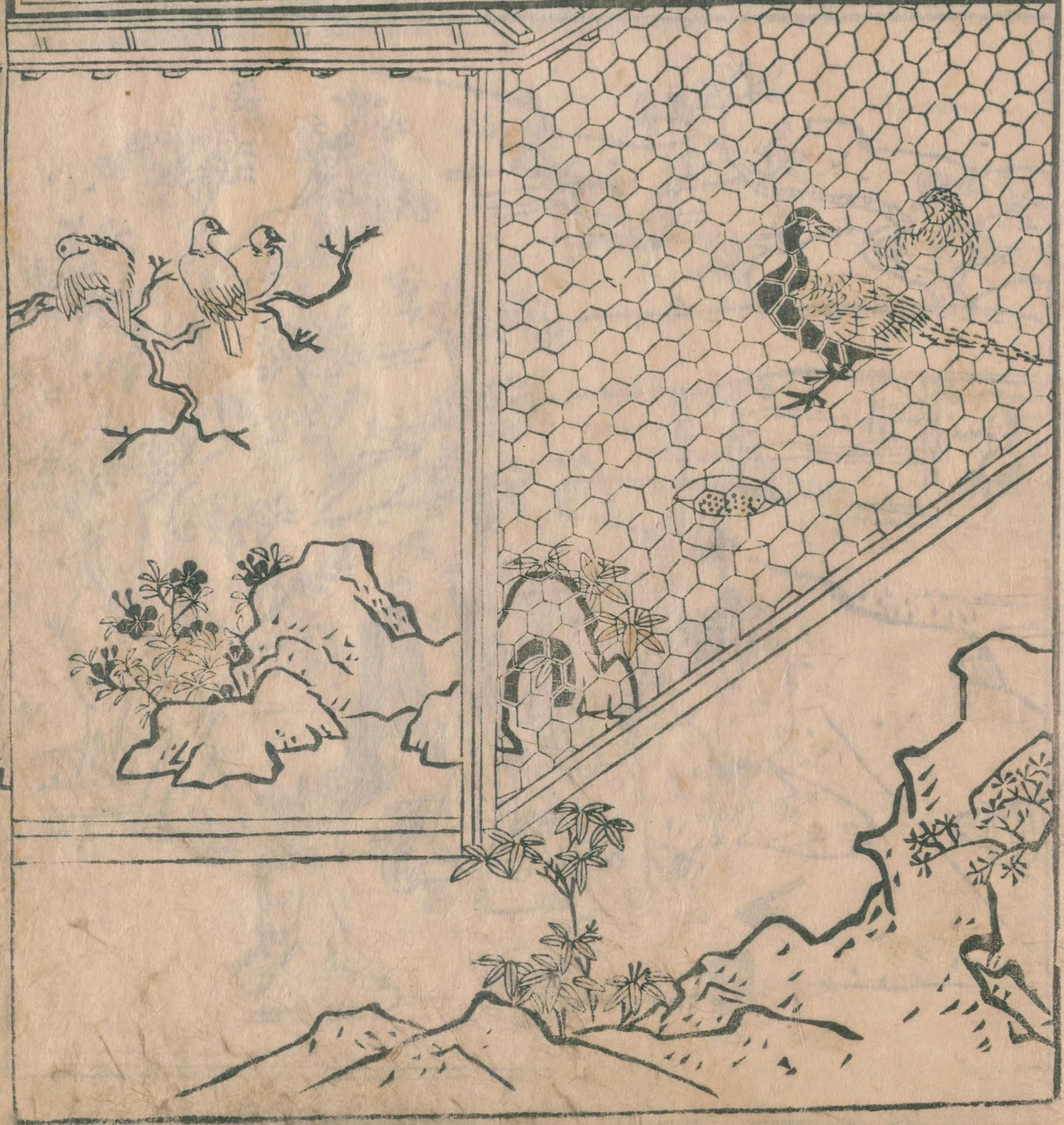
みきれ石組と
すゑなどいれて
御申にはす孫
さる桑とまへく
岩にあひさよ
つまりにとまじ
山のふりに桑
やとをそ御松
杉りゆうとゆく
ゆすり山松を
こし梅などと
さつけれども云
よすりて紫竹
らゑと岩り
ひくせんかなる
なり



▲みきこれみとき
ちそのゐしれ
さくいゆく給う
すりたまは
おりそしとく
ろさとのおさ
よおつおり
そしてみれ
わつこれはあく
つまにまとへ
こおくしその
本へよそより
名花きりて
ご庵くとちら
まどみ六息さし
すゞにさせて



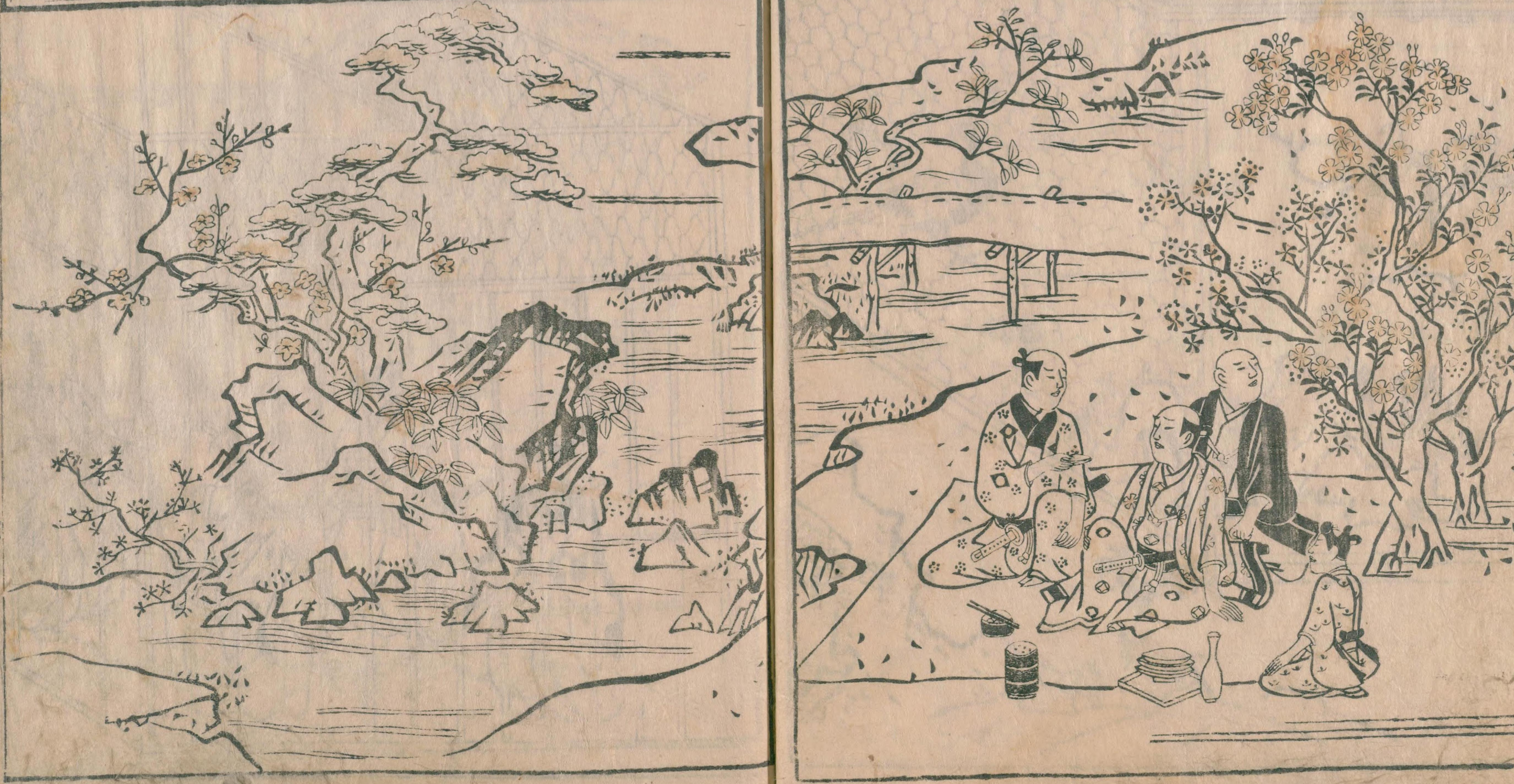
見んあすまるゐ
祢りみきこの
すらみ作くん
ろくそき作ろ
きうじおかて
そのおうあてし
さきりとへく
それくのさゑ
ばりとこのむ
みとこのうれ
余のつき字
とをするとおう
祢りめうりに
事とうるまへ
みとこのあこと
かくさんあこ



ガラス使用

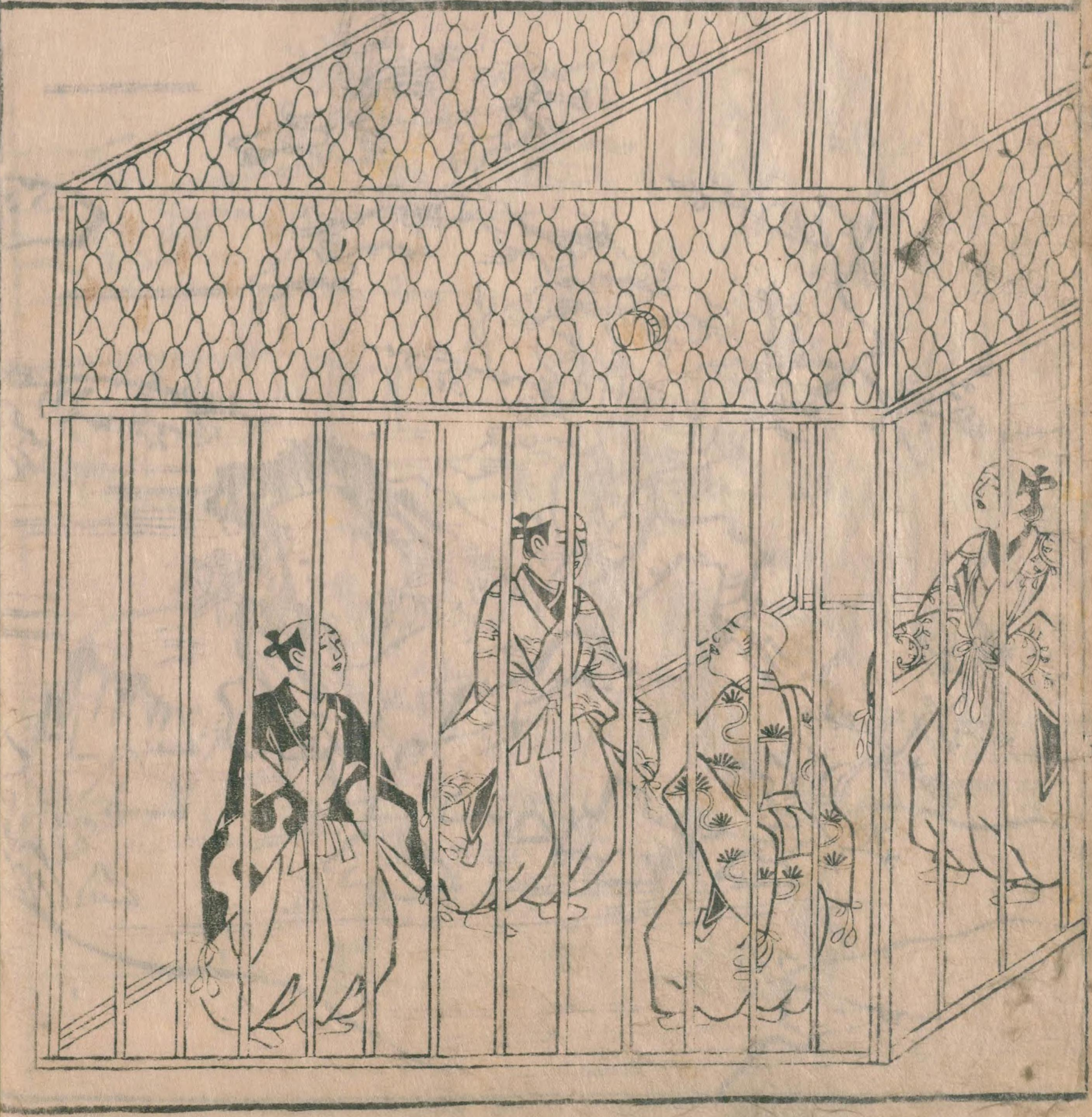
▲そうらいれいか
ことのふかゞつ
き山とよれきそ
四方に池とか
まてゑことうけ
山形みそうに
から思とそ
ゆかしけんかな
りきとそあ
りきにわりつき
とそひろめる
思ひとも十ちり
ありにひろく
せられ此のそ
作よの亭ほと
うつるしけかな

まれけれは池
作る庭られは
さくらつもるさ
みどとうあり
ありち池のかを
どりちし其を
ふせて作るし
花の法に於
よりやんなる
むし路かとと
なり唐其にて
はり善氏山
られは古来も
ふかさゝふとく
く致云乃
庭の作り

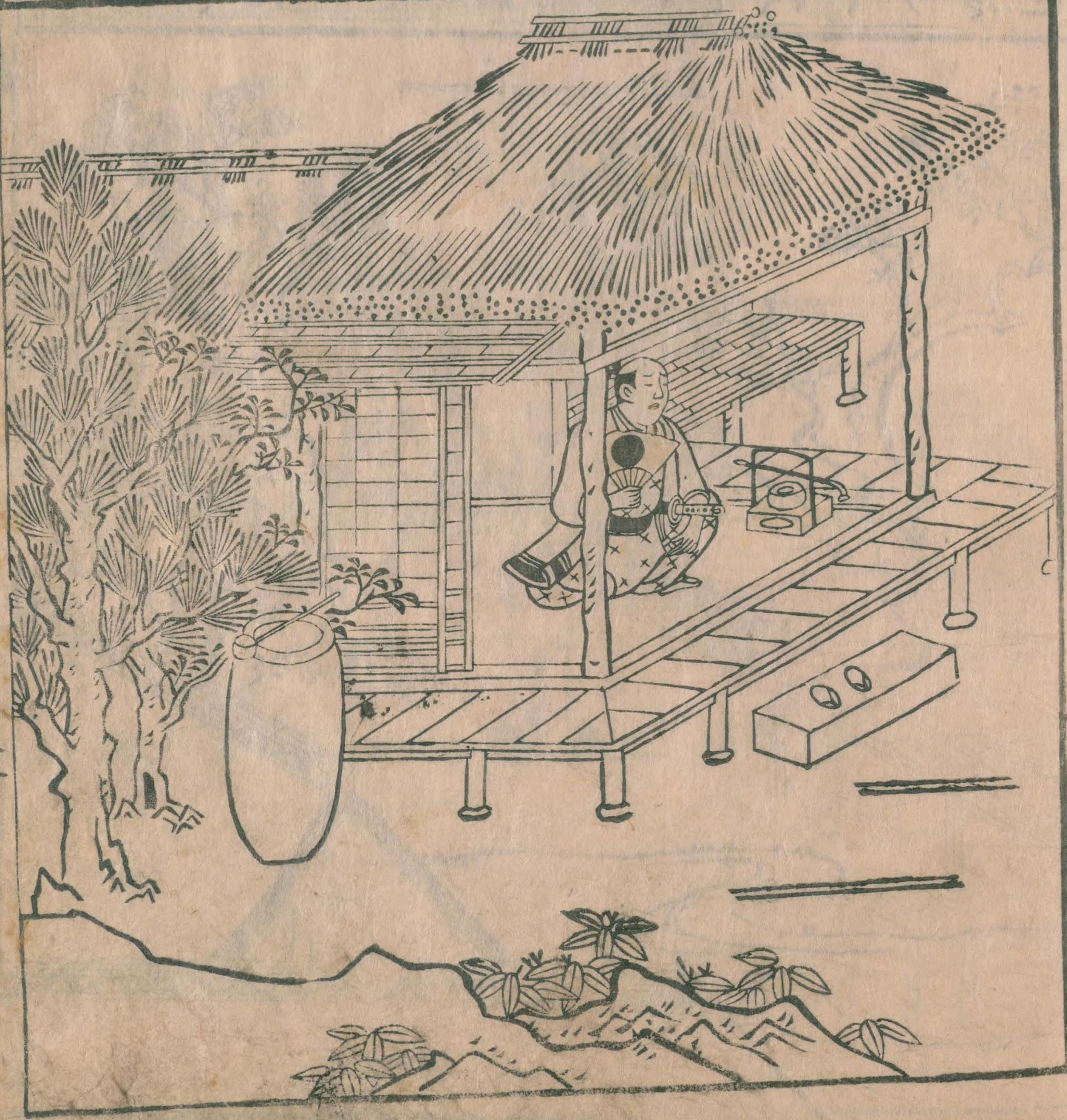


ガラス使用

▲このかゝりは
おゆきさのぞく
きらしんまり
うくあそびし
みれゆきやみど
ゆらそこれあ
にちるえぞく
のふきぬりに
おかゝりもちくし
てうれかさし
きありて山茶花
くやふされ庭
なあり是は
目にみへ源に多
このうへかお
あらぶうさく

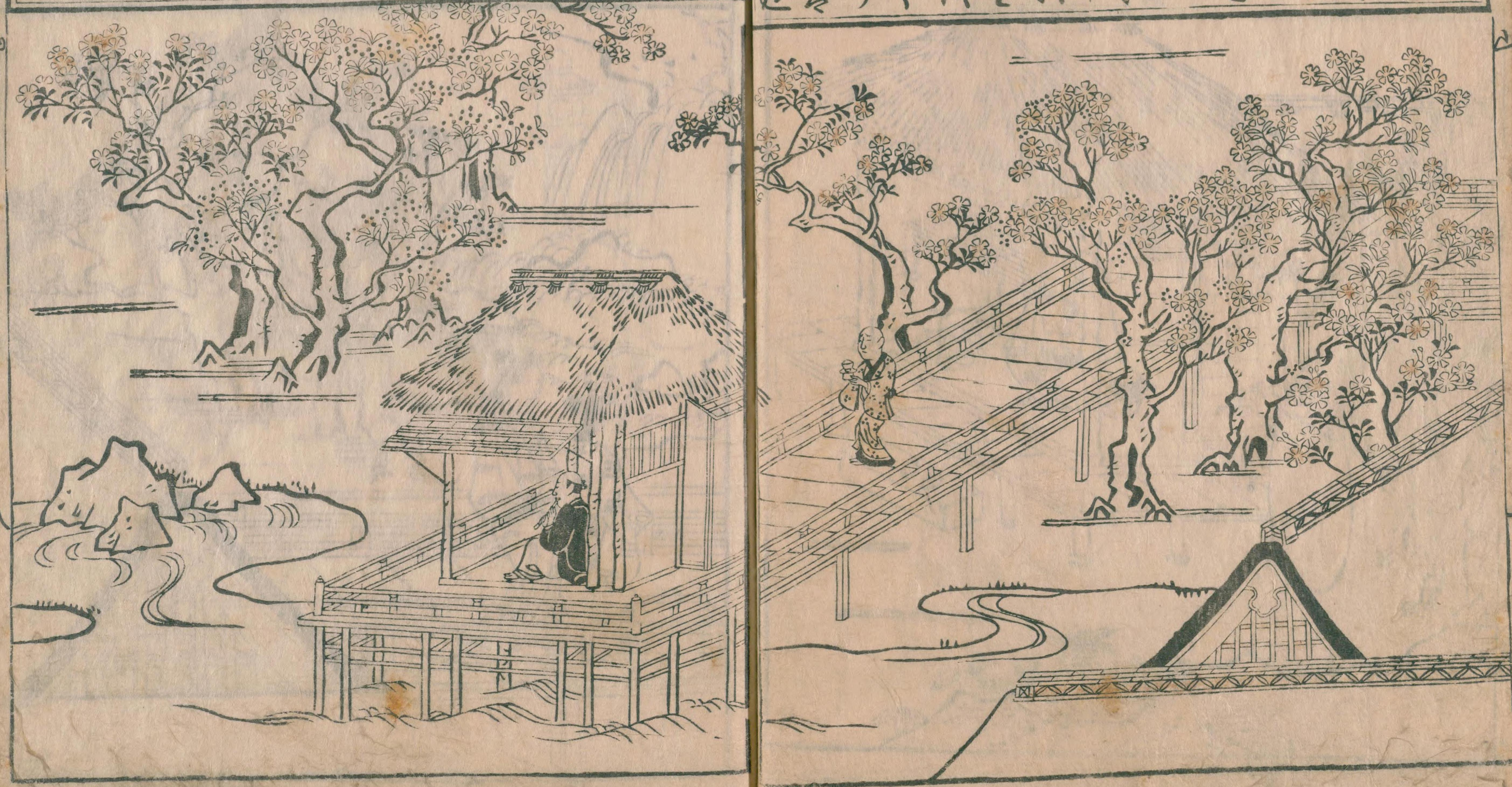


庭に若きる
く小松を植
うれしくする
限わけく花
花あり是を
このむ庭かれ
もうきさうく
あみてうく
ぞうらひうさ
ころそへかり
庭なれてい
さう也まして
ふくめんしゃ
のすむてのを
このむかうし
りかし



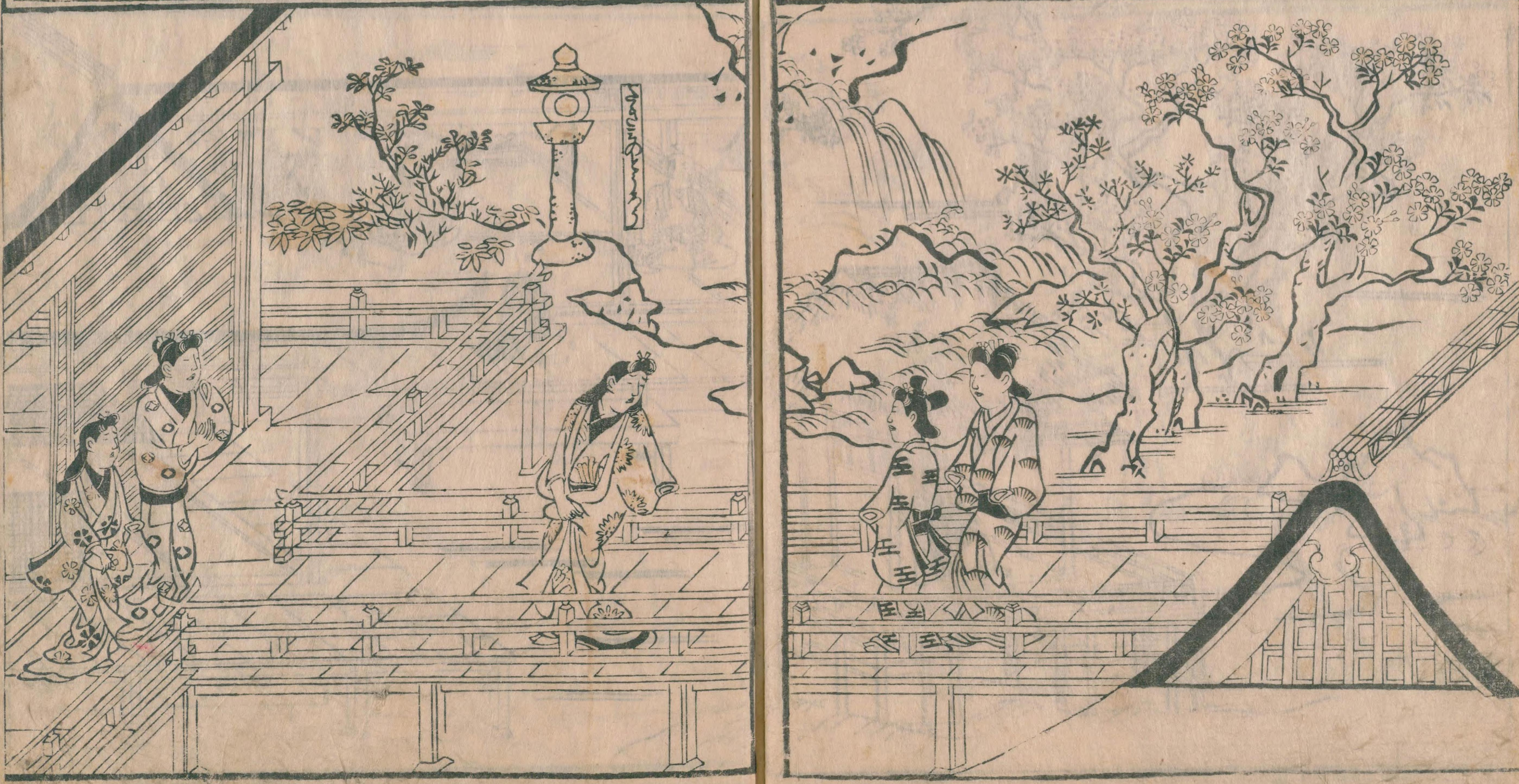
◆この庭ハさうせ
きらくはおもて
もんとうゞくと
つき出しもん
れさ経は源と
不りけ作り次そ
その下とせん
まれくわらい
すへ道とし
いとせこれい
いまゝいちを
さてさう楼
庭中へかく
らくとゝり
まれ菜の花を
かんゆわる庭

ちり茶来へ
山さるとらく
源と不ちりれ
不りれ八宝子
宝らせさう
あり後のまと
らくしらくう
ほされ源ゝ不
らせんうれ
中へつき出し
さうしま見
てらとこのむ
あまるれいぬ
なにかきく
しくゆゑは
しらやし



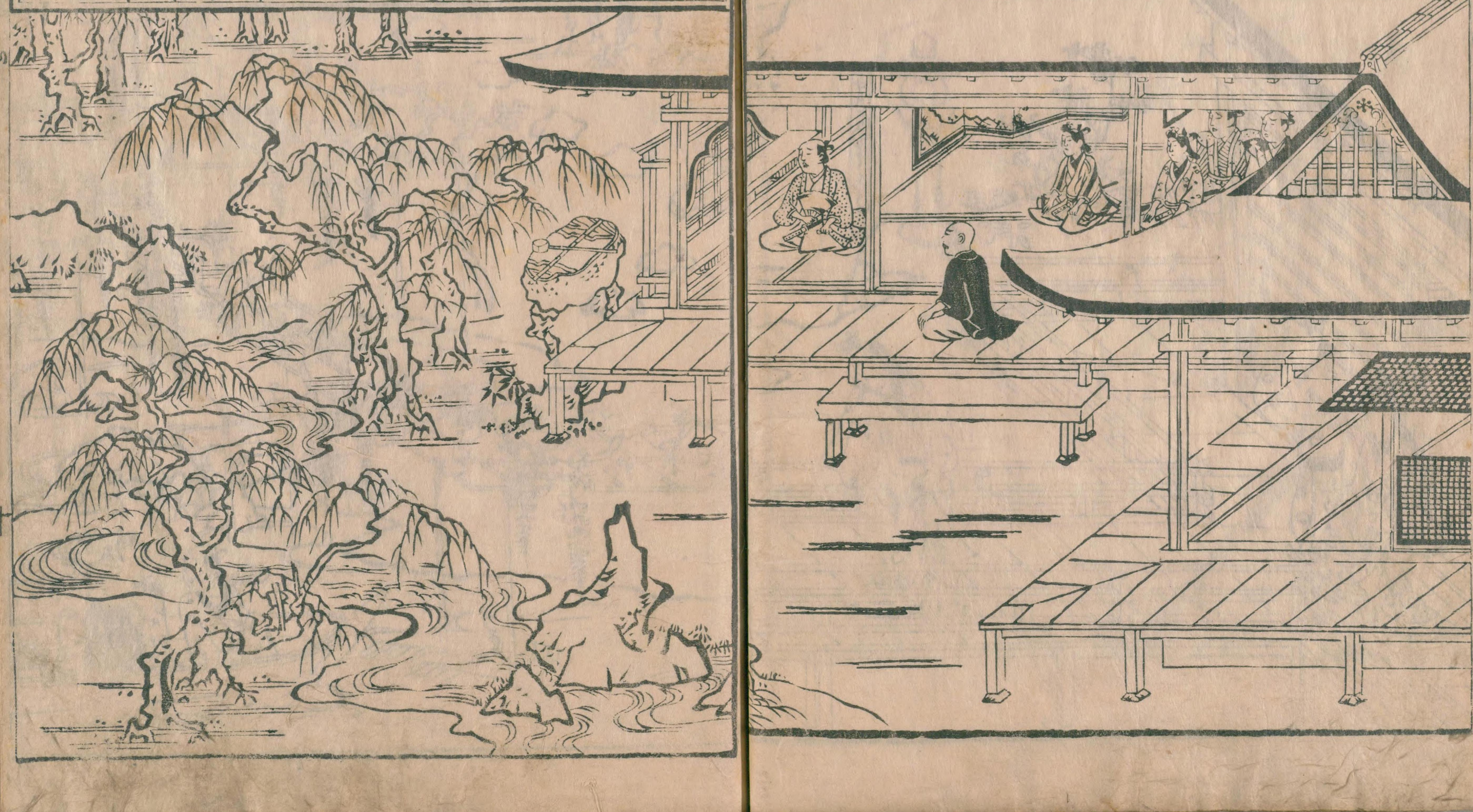
▲しほやまとおもふは
此躰といふ有り
盛りは花ちよ
そのもとにちるいろ
とけ作りふし
くらべの山
にいせさるを
作くまへく
さつき花みだれ
あらけなりも
山かげの所を
ころもにて作り
山ちりより所
つくへかり候た
石作りしろく
まいつかれけり

おの事ともいへれ
海を中にすべし
山のくへよそ池を
作りらつのお
中島たきみの
こらげをそ
その上りは築
みぎとおらに
ありとへ山より
しら中島松林
を植る花の比
ちるらんもとまで
ふゆの此ら作く
ぶくは家ありそう
名は花ちよみなる
あしとよふべし



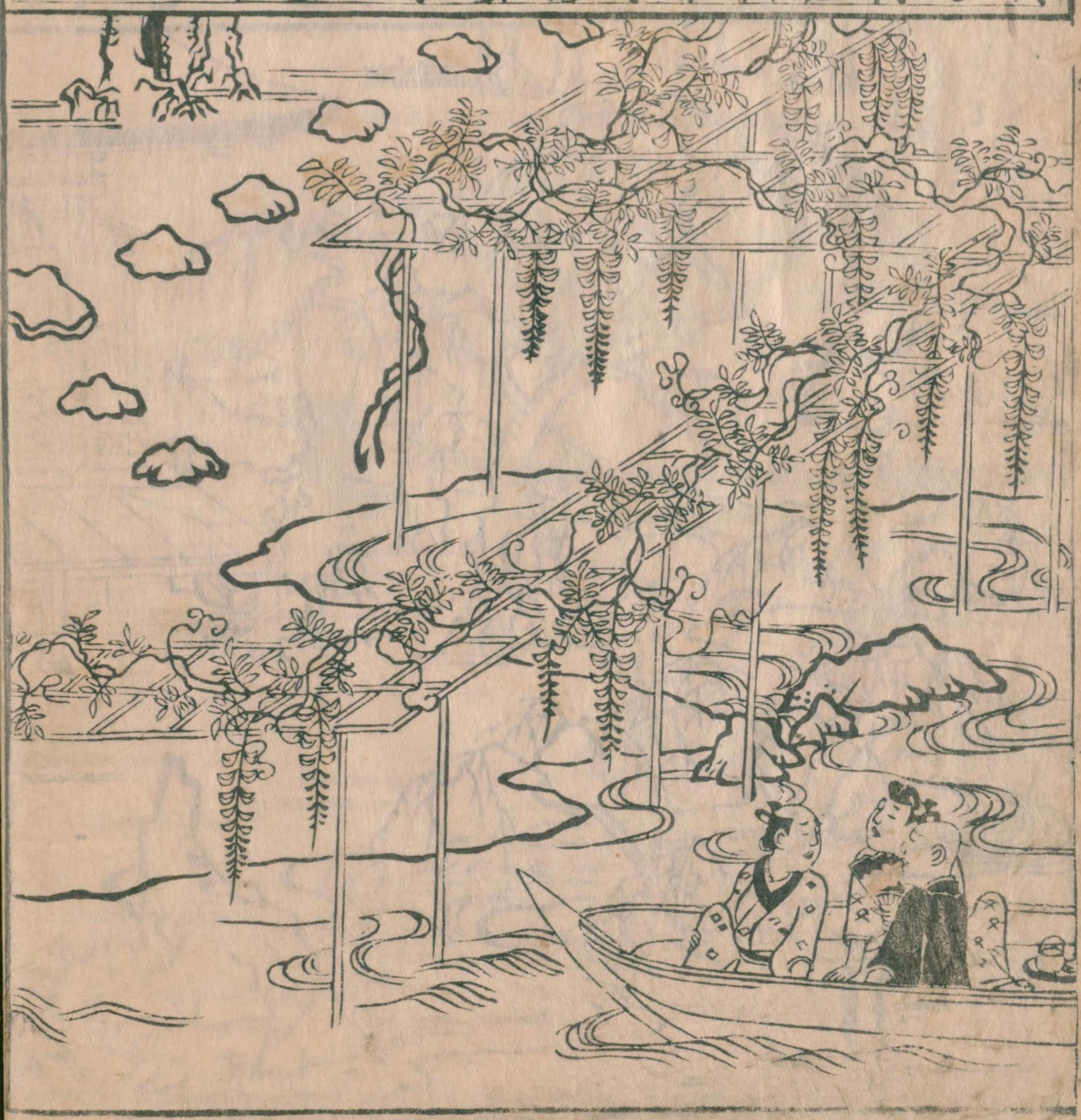
▲このにはをは
川とかせてう
かうしまづえ
あをとみのさん
じやうにうつ
ほうりまう
かみなと修や
うれにつり
せんのいけ中に
いりとうつし
よりいりとつふ
こゝかこかとつ
しうつられり
せんのいけうち
にたゝ柳とく
かゝりまさとふ

せて山に柳の
様子に梅とく
まぜて作るべ
し梅ありはそ
れゆしせんかう
にふしを作り
てあそぶ鉢し
みきはりをを
ふせるわりお
よわさらぶう
れてゆとうかや
よのあられは
作り松の草木
をよくてそのか
ちうに池と
かくし

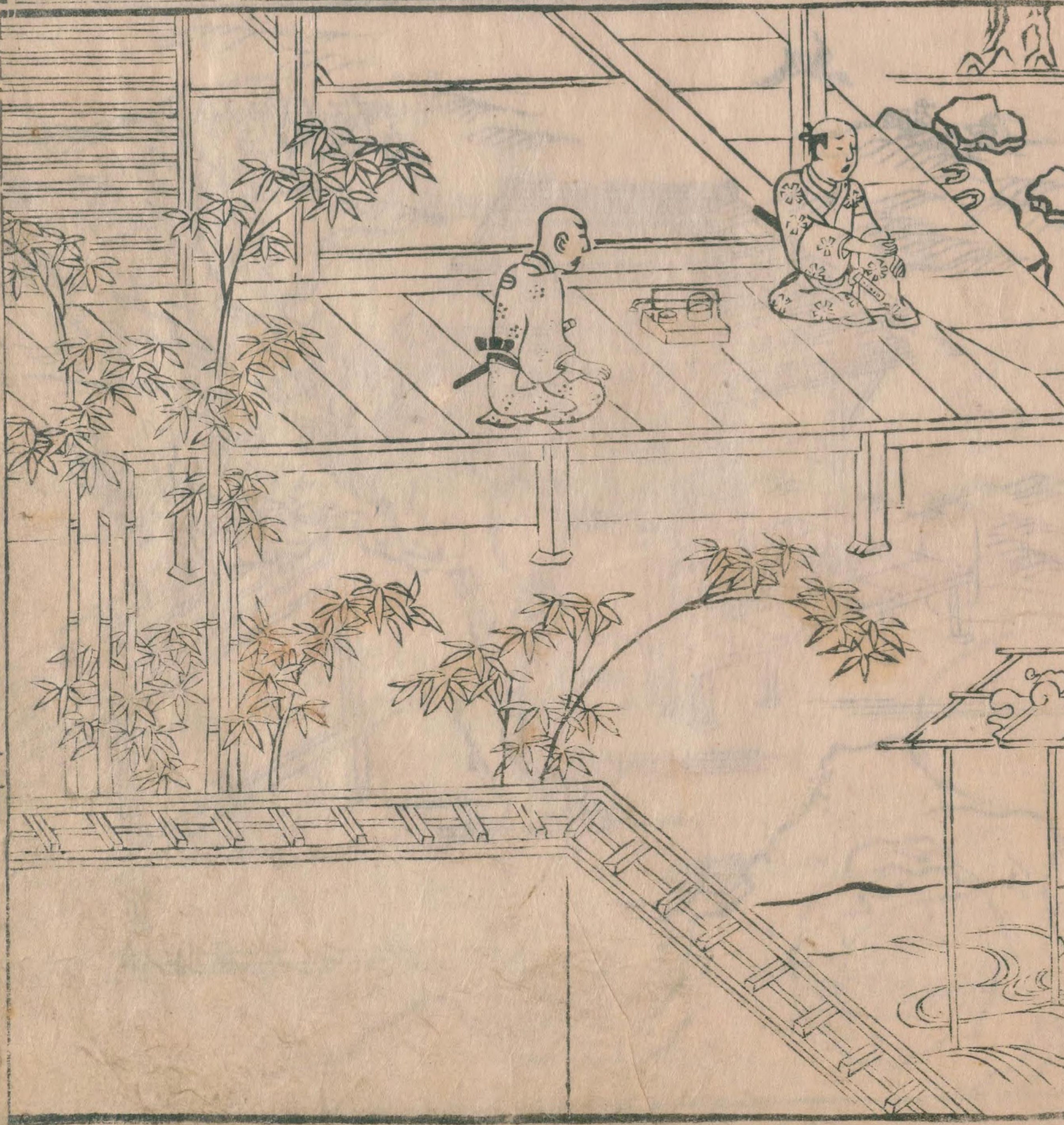


ガラス使用

▲ふぢだなの事
池の中嶋へあ
けはしをかけまハ
やり水ながるゝ庭
にはしとふかきハ
みをとちらえ而
れを見をさせ
にら念わさ花
池清くしかん細変
き庭取りあい
らさ花ふく
忽ごつさなみ
ゆうれいのあ
ちつまん作と
みくいくじょ
り於さゆでも

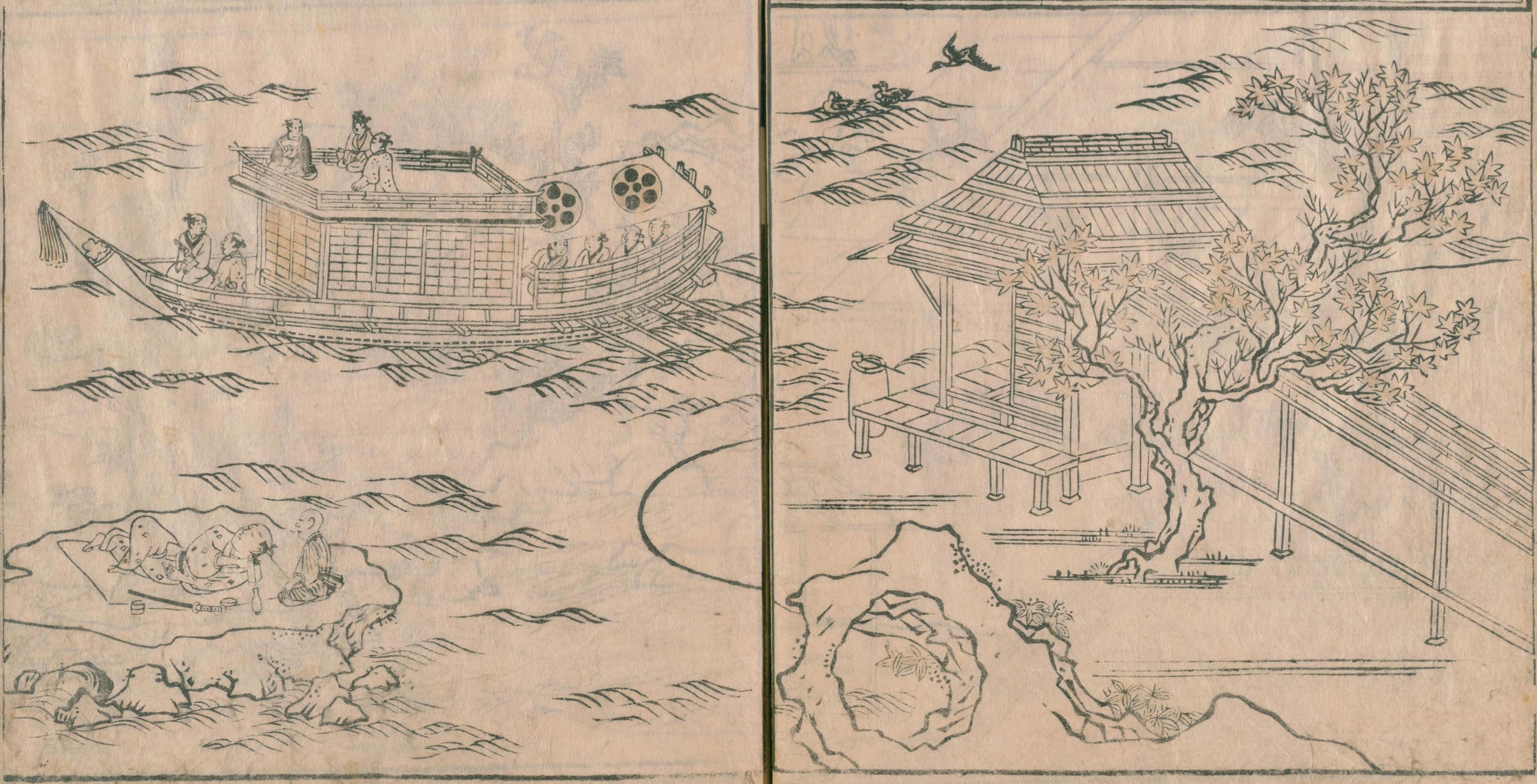


よひらそへし時
ふぢなかほどさ
れみせさとみる
さかれ花なる分
花の色くい
海石れのなか
をすてくふし
中にやうをを
ぬかしかるべきは
るにて而中庭松
のまへまとせ
使うしわの
木中にちふつき
わきりのこし
これるでりれ
まちれ庭し

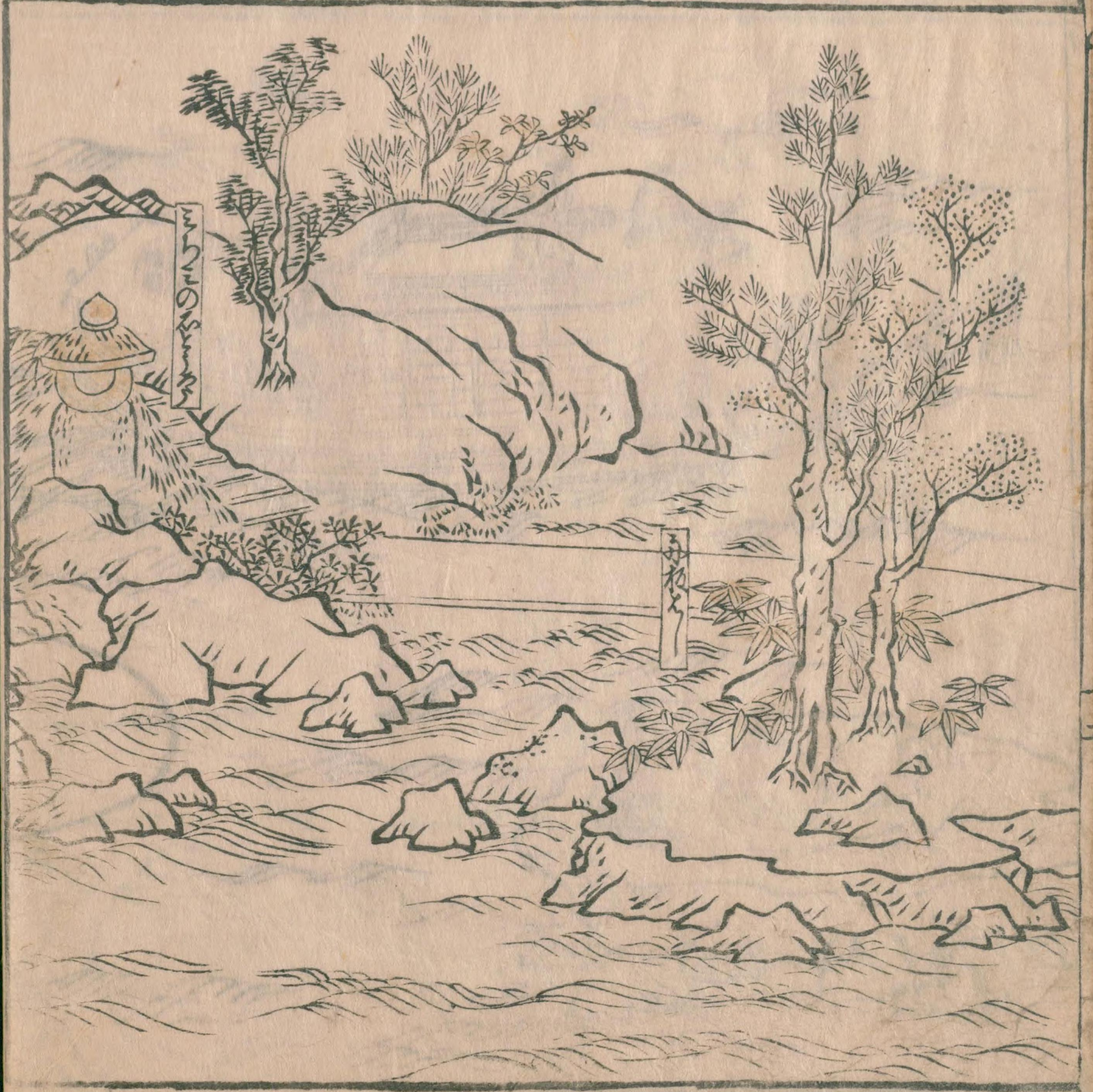


▲このゆきを
せきへきれふ
からの庭こ
えんべよあは
なみきさかずれ
あつて庭なり
また川を魚べよ
わむしすゞみ
面とそ在家
ようらしをと
つけてりみち
とく人植ざるな
どもあらい
えあへとい山
よそおし海り
かりそのずとつ

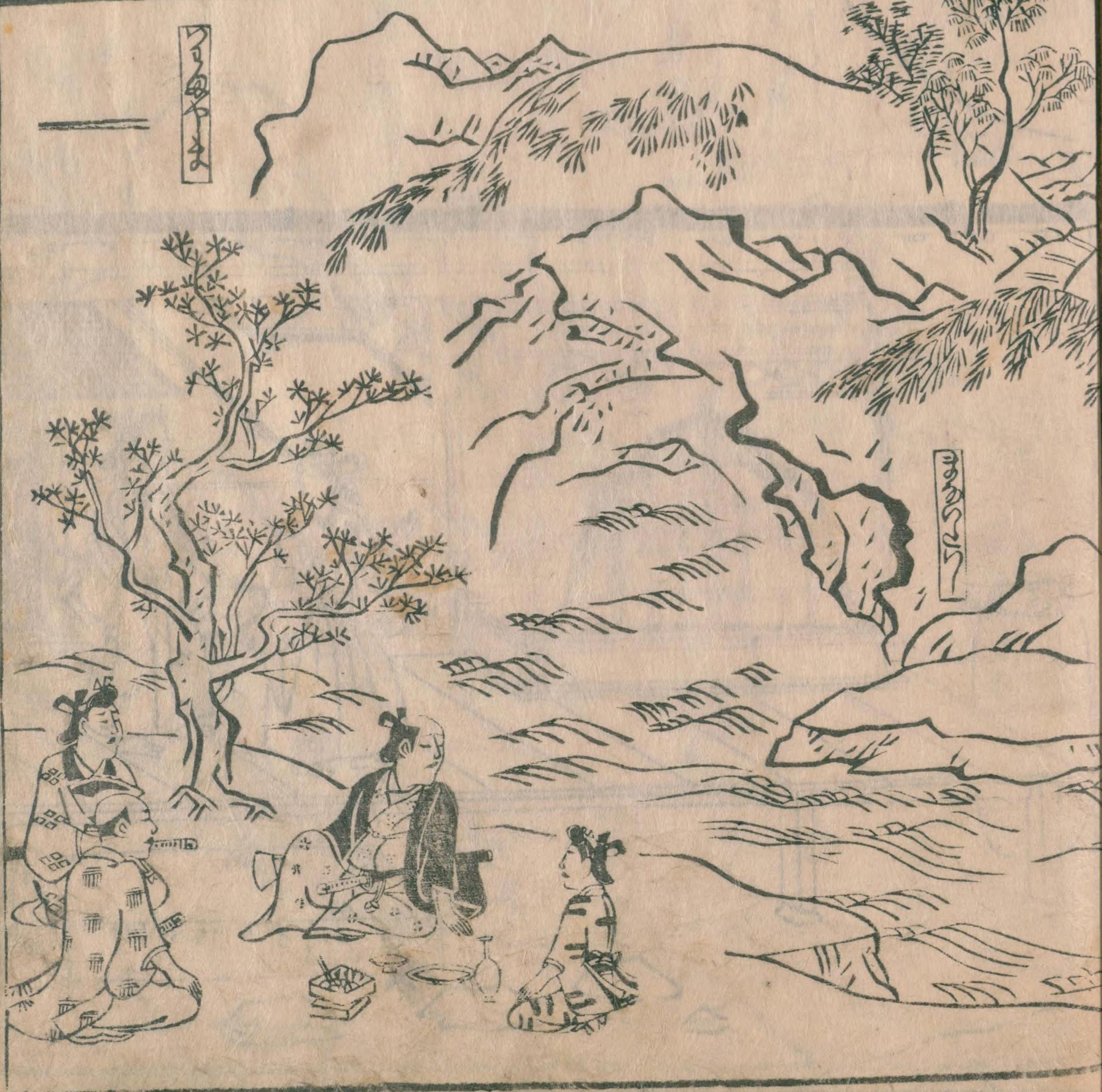
くり海よへ将
ありと作り芝
とふせてかき
ふもと作りかさ
また海ちへむ
つりのごとこそ
あそぶ修ずく
かすと作けく
つりみぞるく
あそぶされも
かちゆれかきな
れたしあさまに
作りなり海
きらにすれ
いまのずとい
らふなり



◆この庭とおき
ひ山とく名作く
池しこみそうる
ころくしとてき
とりまへの前
つけたしひあ
うとさん見えぬ
あるの作りし
家作のはら川
の心われにし
とりてつて向の
よ出んとおり
たと作つ見い
くりゆうち見せい
ありたるの石
あらろことすて

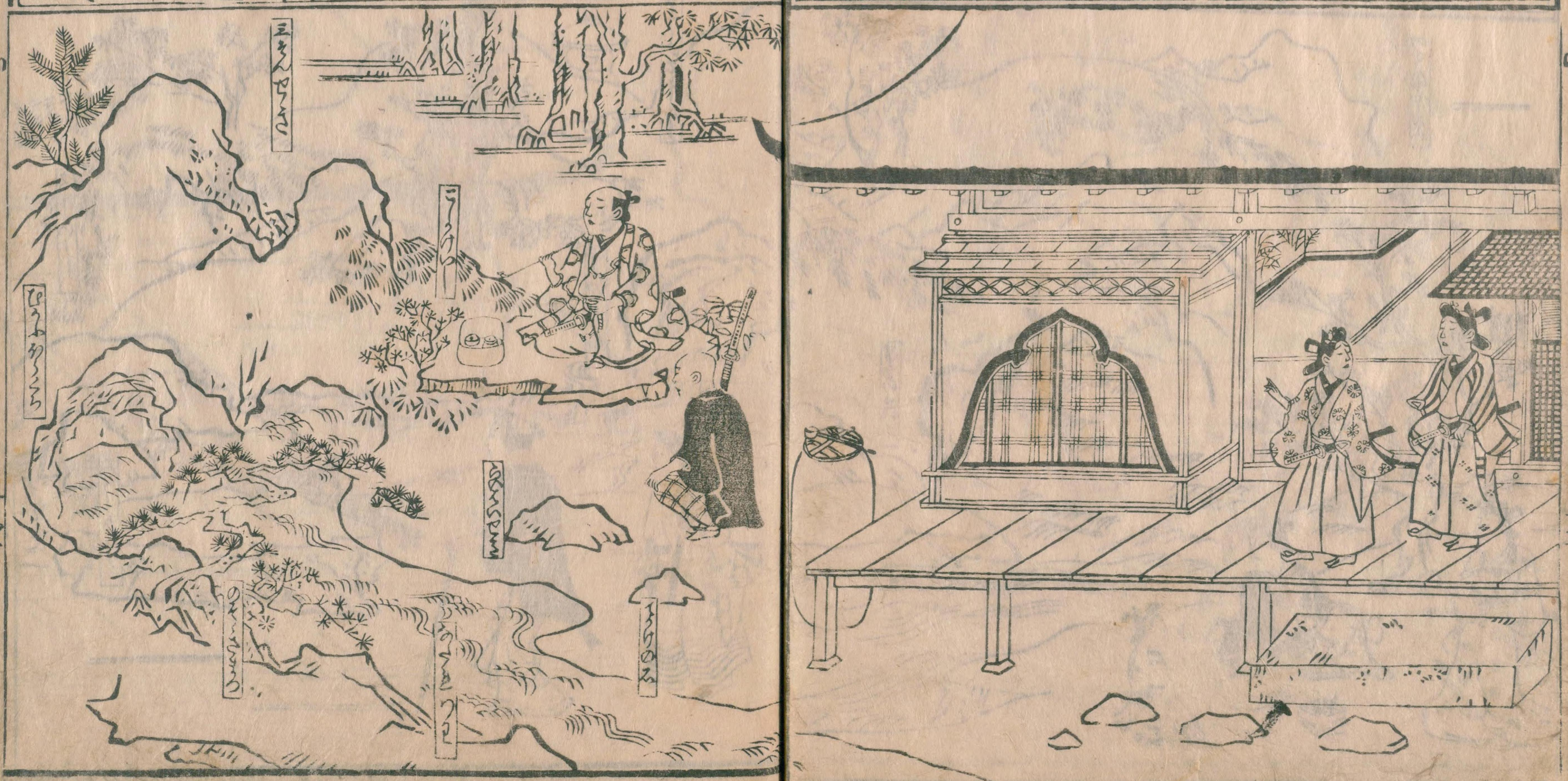

ミらこの石まえ
み板わたし

山のは石く まき
とんてくまる
松石をいも川
川とりさらの山
のへ何見山は
流りとくく
見めるれは
とうかいる家の
前あひよ様なる
流るのしとた
とおうらのまる
いうる石はまつり
ちゃ御るとかた
て御この山続
つるみのや秋や
こさら庭也し



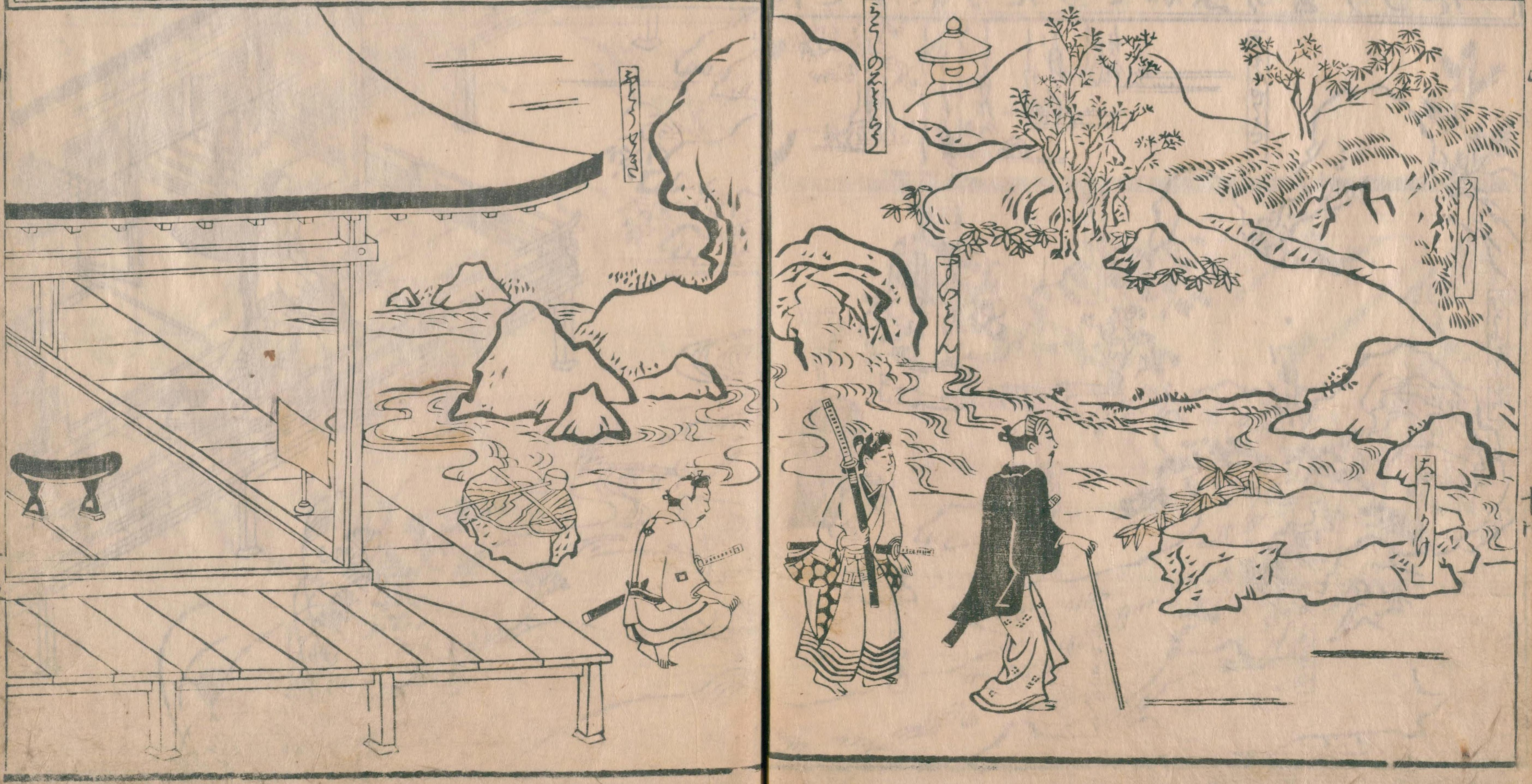
◆この庭のしつらい
なきられあさく
はせん庭数を
わかき女作り
みしく添さる
はとことをつけ
うとらしにと
是わりしと所
のさはよるき
ま流之れ石を
すへ出し庭
か岩をのれく
えみなは作り
これとえる石
とらかしそかく
はしりけ石と

すへ山のそうは
石をうへたし
やりは山をまう
うし枝はすれ
さゝ松とうゑる
これとのそれは
松しふきのみ
まうかれつき
てうひの石らい
そのれからふ
海くの石あり
出しをす中せ
らの山のかけ
たすゞのこと
また山しておん
すへき也し

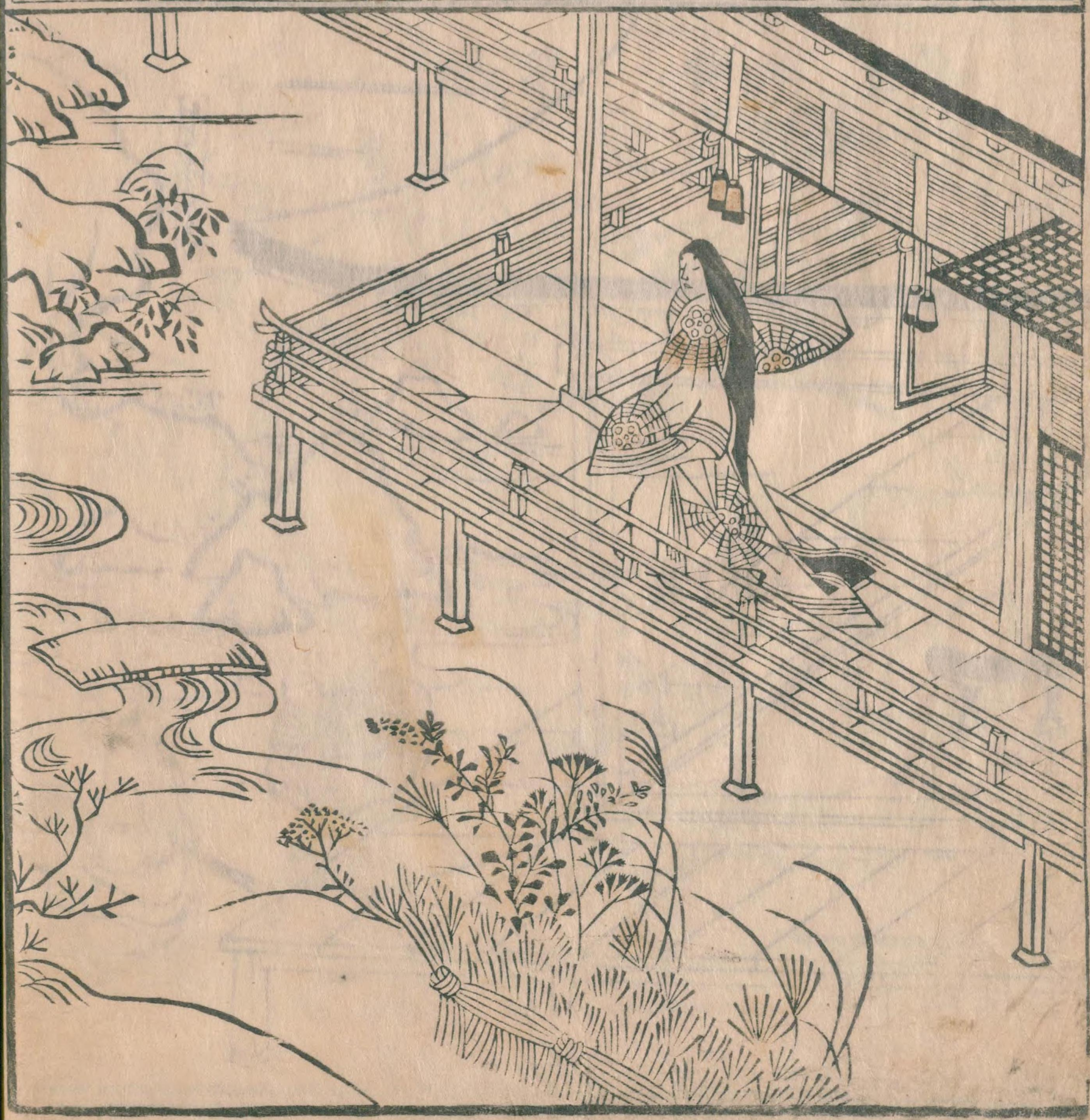

三そんせき
こうけい
なうわかうち
らくらやせき
うけの石
のそきとうろ
みなとうつし

▲山かゝりとは
嵐の庭にふ
かゝり座敷分
見られぬやうに
山をとり合せ
て作り海あり
流れまへより
またに中山とは
り渡海見くれ
高くうしろ岩
あはひにかくさ
れとうるわし
けれにて御し
山のそはに大
うけいしを作
其外山中にあり

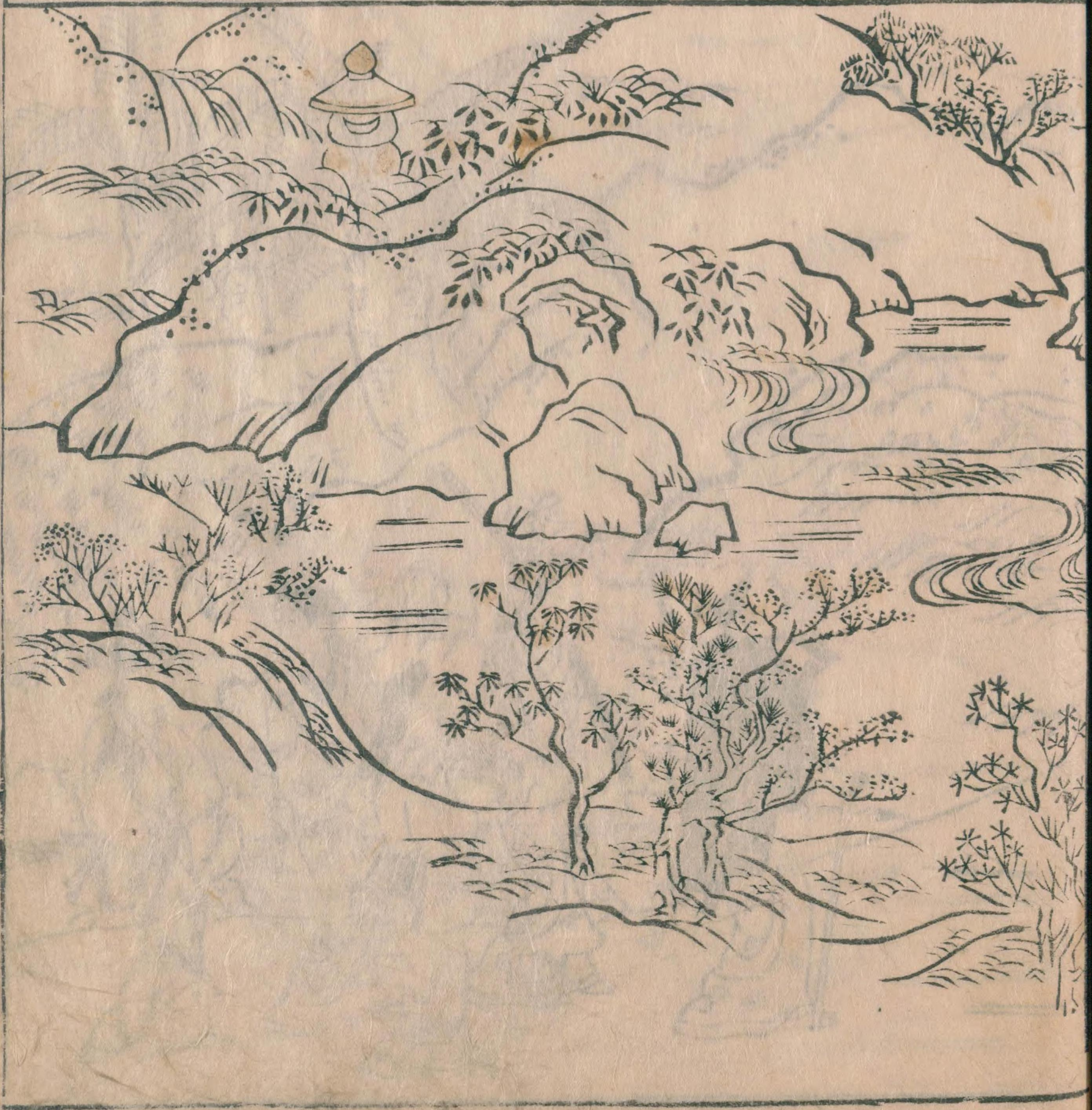
りとうげに
みちしれ石とう
ろくとおきて
植木よくあり
うき山りと海
くこの林ま
とうてとしの
好よ宗あを
あざれすりん
石とのまへを
そのえのうら
よりふると出れ
植木ぬきて
あのとりけるし
山ら其山岩
山より海を作るし


ふどうせき
ろうのそとうろう
すそくん
うしろ山
たきうけ

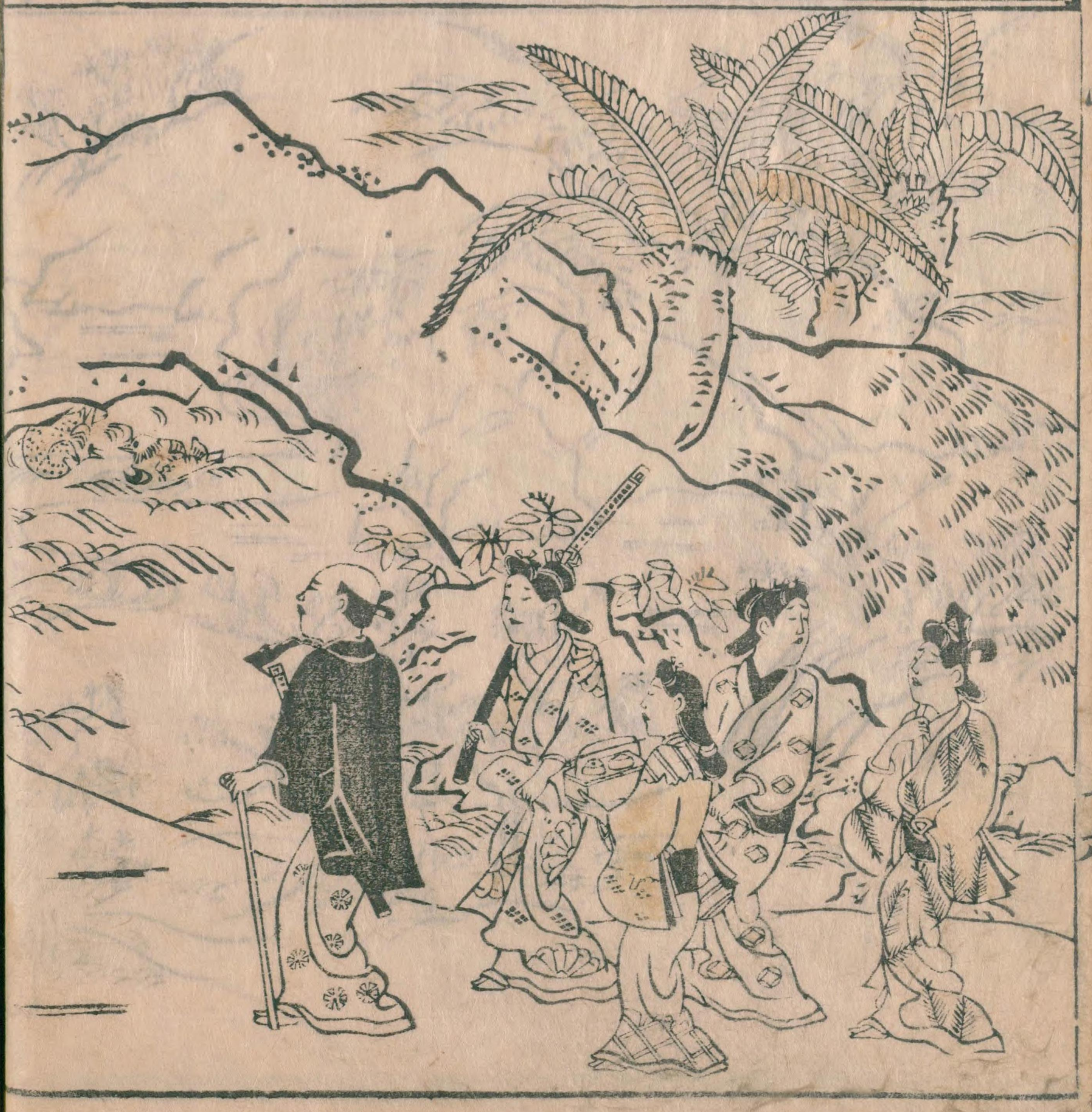
▲この庭をそふれ山の姿といふはさ山とつき南方へせんすを作り山のけ分まうを都れを名ぞ多くあらあふ中にはをりし氣まれにさうしとけまへ南方志ちりきとゆいちぎさすこきをあらいは山の形よみちの庭のろうそくの詞よ詞さうと



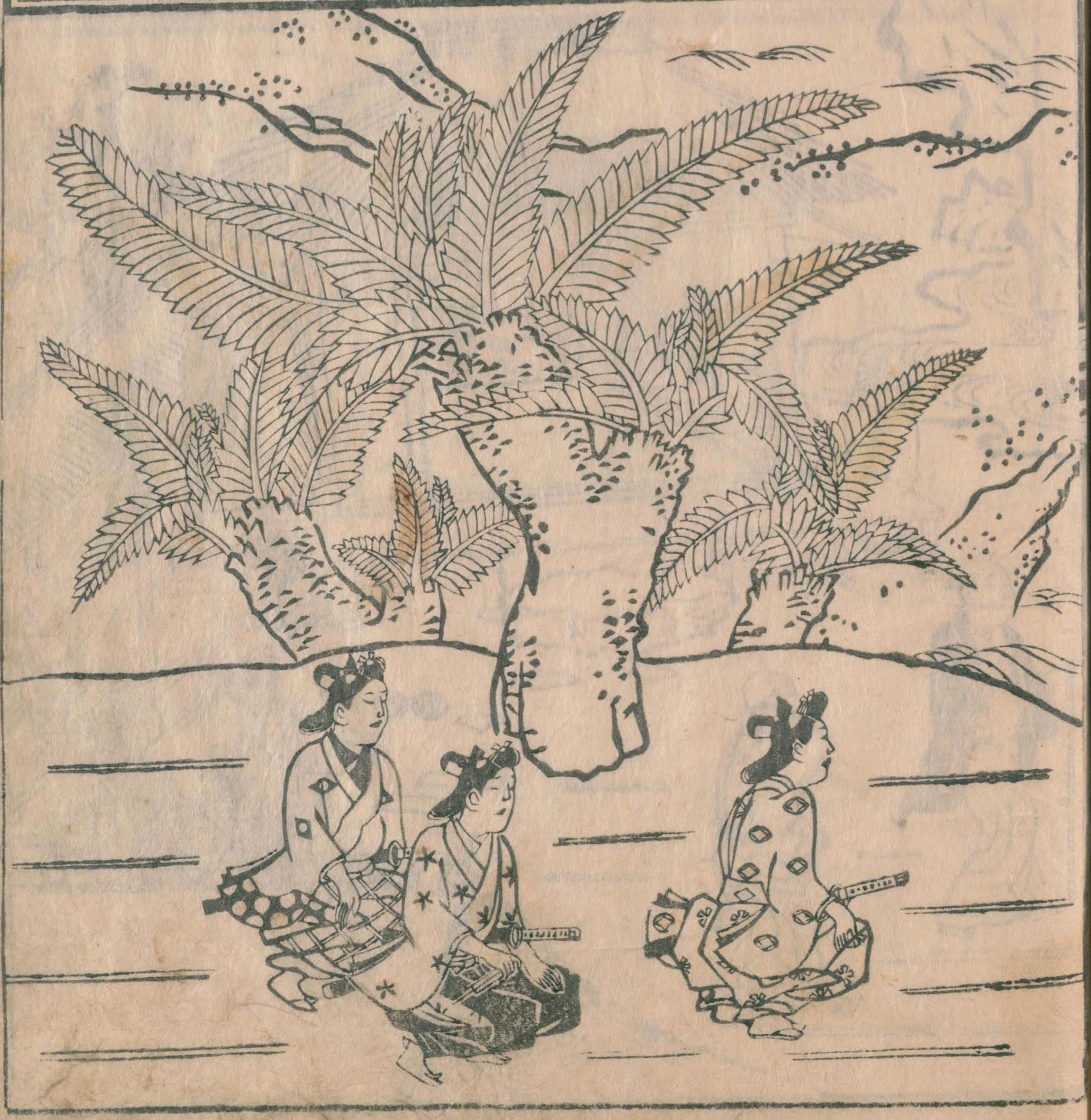
うつゝ山のうく山はまとのしとうへく華族はあをとほくりちらけみて山こ此華とうすすり南方此まあらあふ示よみの中嶋を堂けく金うりられ竹氣し宮ろずとちをれりさ堂のくまてはすさきあまへめあり



▲そてつの庭
そてつ乃山とくれ
しるくあり
そてつ星らく
人のすまゐく
あまうつされり
ことに異國乃
猶あられども
のこ庭造りの
ふうまくなすく
てきよしたま
つさのみさせん
らんれりあぞ
さんにくるおし
きれいもそう
山のけはんあ

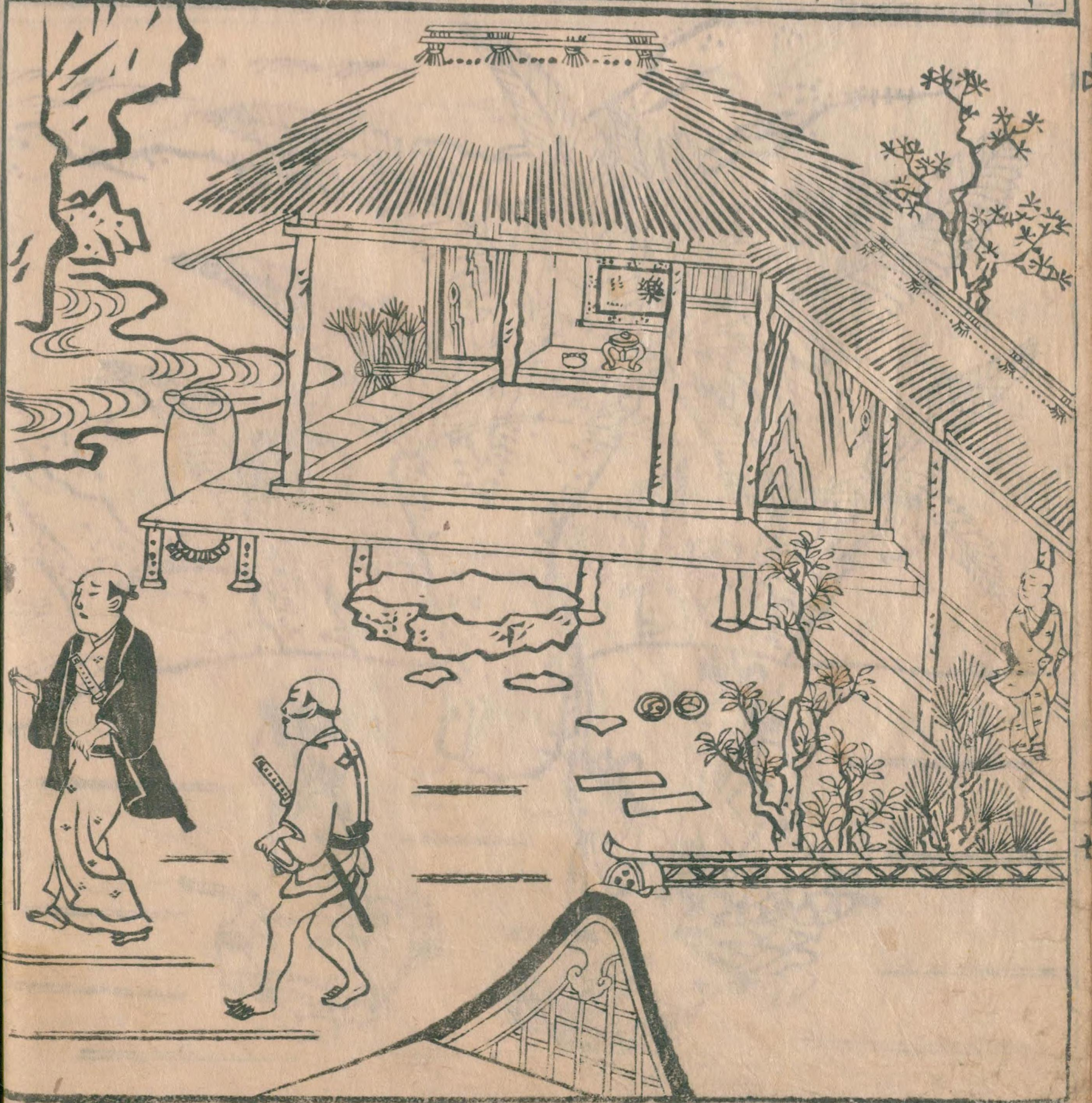


とはのそてつ
は庭のはせん
あをやぬおり
ありさまは笹
とおもはそう
しもそての山
のはかりの毛を
うへぬおりはよ
いつも葉をふせ
てこのおり袖
めでいはるぞを
あらわすあれ
そてつ山の作法
をん菓をもて
ておも弐は
自ら

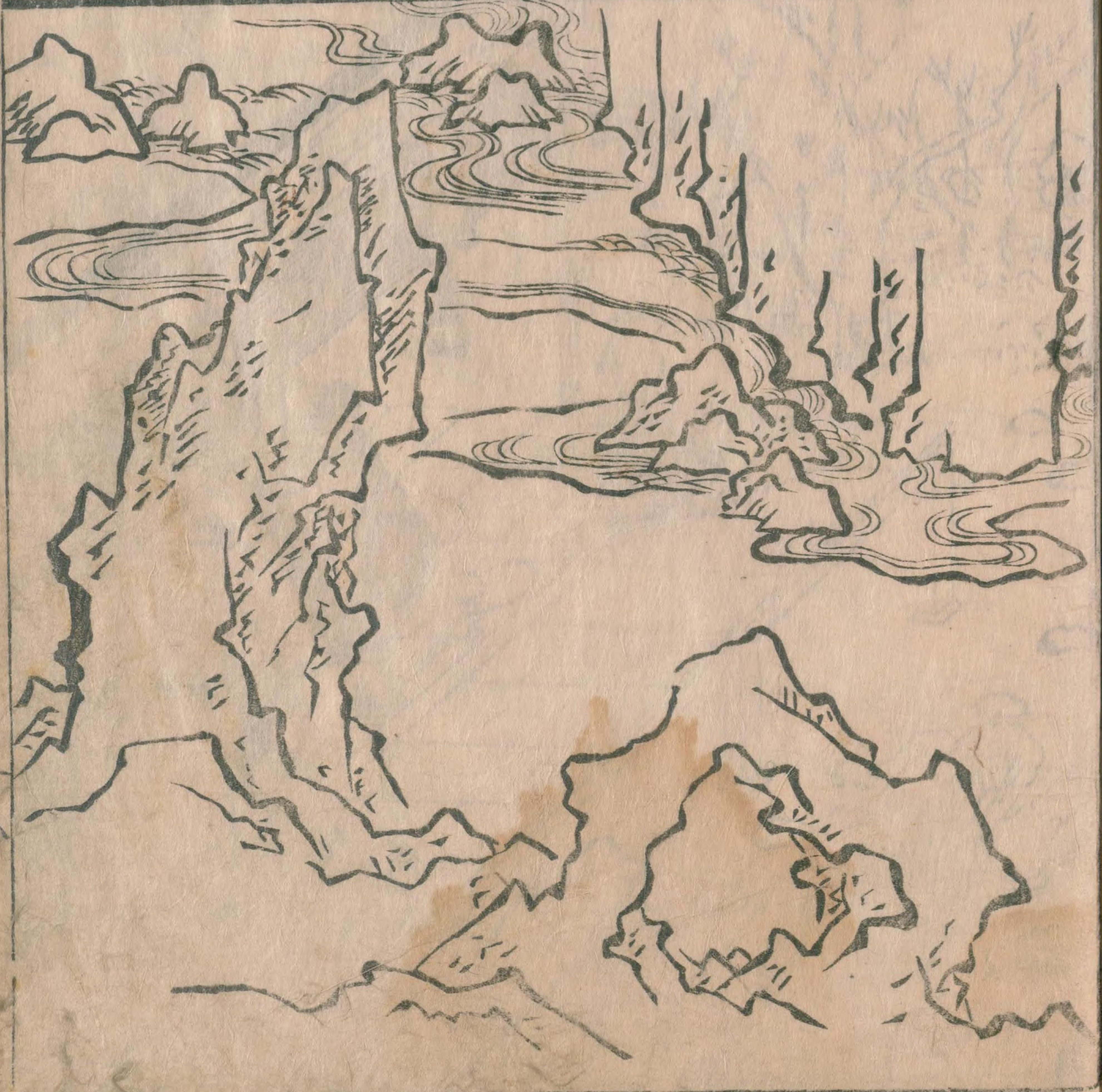


ガラス使用

◇この庭さいゝや
れきしいつて
まへよぶいて石
とらふ般若石
そろうてとそ
みるはひとふきく
岩わいより水
とおとす也
前栽のりつを
ひへうやぶされ
らとつとつけ
まへよいつての
樹木をうへく
すきやとみ合を
むすびにつ花
まわひかり也



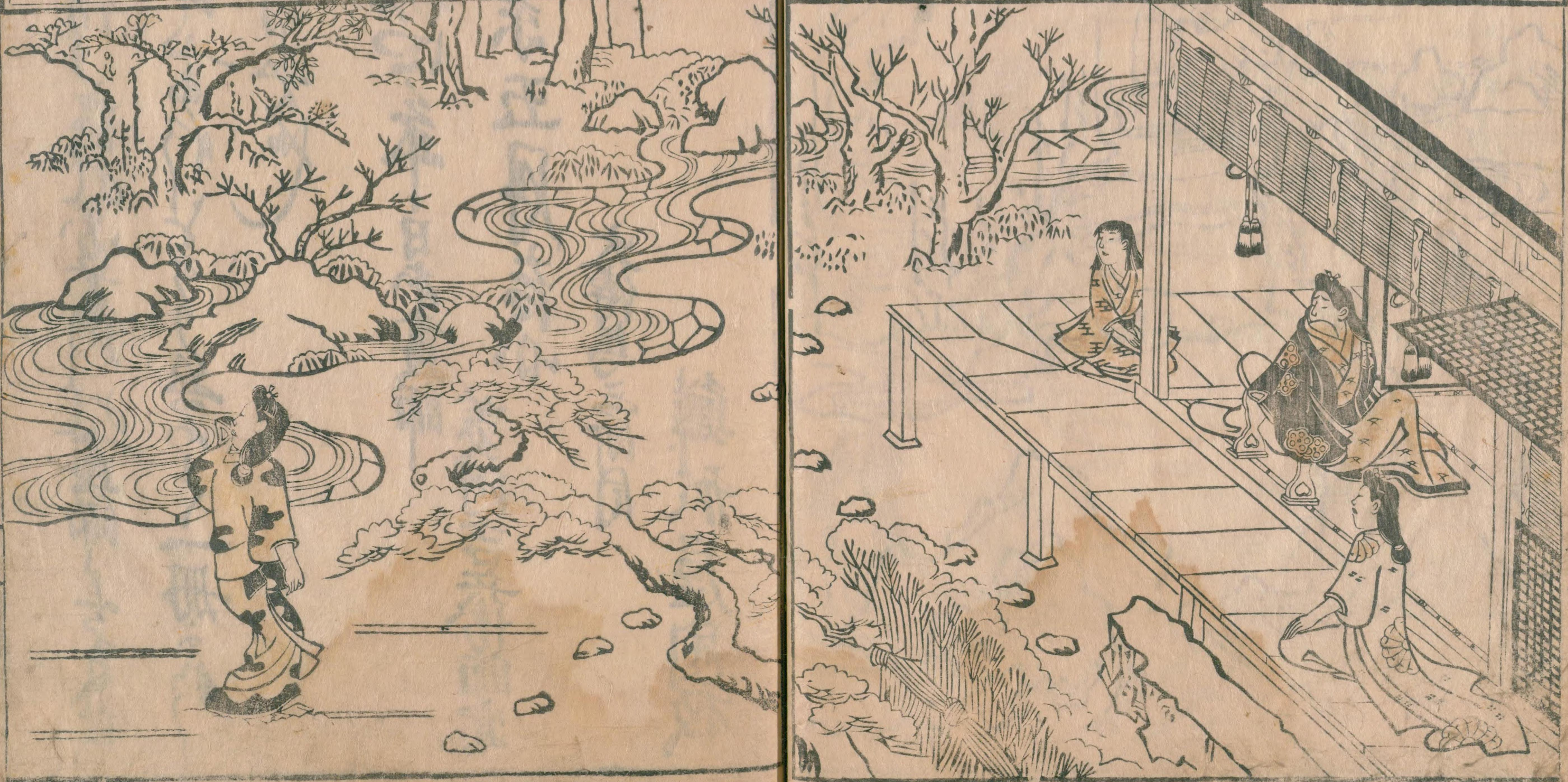
くふつさ候
おらいおつる
又すみ瀬で白
金とみゆる
やうれさおり
にはるさ樹木
をよう庭
はおゝくらへ
ぬわひさ候まき
れいくつまき
すぐとおら
い庭はゝき
りまうての
お守りとりべし
くこいの新たに
松などとりべし



ガラス使用

△この庭とおゐ
おいの庭といふ
作りかく方れは
庭はつくるなに
あり庭作り
すうかくかずろ
く水ら作りつと
みこし山をすて
と何らの池
の中にしん山
せきそくふり
れとに嶋と云
嶋の八つまを
うつくし木のれ
ひとつり木を
うへく飾りと

もちひその内
まるをはなく
とくかんさんね
よ梅のてを人
くきのきまん
福さくかし
庭のまんかよ葉
れ秘らさとゆい
てうき根よ家
れ松とうつる
まよ同く松せん
庭よ飛くる
れそく宮中の
ふうれめ宗ん
くちらくあり
作き庭と



特別
カ
77

此餘慶作り庭の寫菱川の畫師吉兵衛
念をこめて書わりしとをり集めて一冊の形し
令板行者也

元祿四年日本畫師
未五月吉日　菱河吉兵衛師宣
大傳馬三町目
鱗形屋開板

か 特別
77

ガラス使用

帝國圖書館藏